

令和2年度 事務事業整理シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
1	01	01	01	生涯学習推進事業

予算科目				
款	項	目	事	事業名
9	05	01	02	生涯学習推進事業

実施計画整理番号	
101010101	
総合戦略整理番号	0

事務事業の概要	
<p>事業の目的(【だれ・何】を【どのような状態】にするか)</p> <p>・生涯学習情報の提供、市民カレッジの開催、学社融合事業の推進を行うことにより、市民が様々な学習活動に参加できるようにする ・生涯学習活動を行うすべての市民に成果の発表の場を提供するとともに、新たな学びを求める市民が学習機会に出会える場を創出する。</p>	<p>活動内容(目的を達成するために何を行うか)</p> <p>・生涯学習推進協議会を通じて市民の意見を取り入れる ・ハロータウンの発行 ・体験活動ボランティア活動支援センター情報誌ハローウインドウの発行 ・生涯学習フェスティバルの開催</p>
<p>令和2年度の具体的な目標</p> <p>学習活動参加者の増加を図る。</p>	<p>令和2年度スケジュール</p> <p>・生涯学習推進協議会の開催(年2回) ・市民カレッジの開催(全7回開催) ・学社融合事業の実施(新治小学校で実施予定) ・ハローウインドウの発行(年2回発行予定) ・ハロータウンの発行(年3回発行予定)</p>

区分	単位	H29年度			H30年度			令和元年度			令和2年度		
		計画	予算	決算									
事業費	千円	456	456	429	456	456	383	426	426	365	431	444	372
財源内訳	国補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	県補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	市債	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	一般財源	千円	456	456	429	456	456	383	426	426	365	431	444

個別取組	内容	取組に係る費用(千円)			個別取組の達成状況及び今後の方向性
		計画	予算	決算	
①	生涯学習推進協議会の開催	32	32	20	生涯学習の推進に関する事項及び次期生涯学習推進計画に関することについて審議した。現状維持。
②	市民カレッジの開催	56	56	0	コロナ禍のため市職員のみを講師として実施し、広く市民に生涯学習の機会提供を図った。現状維持。
③	学社融合事業	52	51	50	新治小学校において陶芸教室を開催し、地域教育力の向上を図った。現状維持。
④	体験活動ボランティア活動支援センターの運営	284	298	295	広報誌「ハローウインドウ」の発行を通して、青少年の奉仕活動、体験活動の充実を図った。(年2回)現状維持。
⑤	ハロータウンの発行	0	0	0	コロナ禍で市民ボランティア等の編集委員の安全安全を考慮し編集会議中止及び休止。現状維持。
⑥	生涯学習・ボランティア活動の推進	7	7	7	茂原市体験活動・ボランティア活動支援センターの活動を支援した。現状維持。
⑦					
⑧					
⑨					
⑩					
事業費計		431	444	372	

令和2年度の実施状況(事務事業の実施内容等を箇条書きで具体的に記入)

- ・生涯学習推進協議会の開催(3/25)
- ・市民カレッジの開催(9/2、10/5、11/10)
- ・学社融合事業の実施(11/4)
- ・ハローウインドウの発行(7/29、12/9)
- ・ハロータウンの発行については年3回発行予定のところ、コロナ禍により市民ボランティア等による編集会議を中止したため発行休止

令和2年度 事務事業評価シート

基本計画					予算科目					整理番号
章	節	項	細	実施計画事業名	款	項	目	事	事業名	101010101
1	01	01	01	生涯学習推進事業	9	05	01	02	生涯学習推進事業	

CHECK (評価)	令和2年度活動指標(アウトプット)の達成状況				令和2年度成果指標(アウトカム)の達成状況			
	<ul style="list-style-type: none"> 市民カレッジについては新型コロナウイルス感染症の影響により全7回中3回実施。 広報誌ハローウィンドウの発行部数 12,500部×2回発行 				<ul style="list-style-type: none"> 市民カレッジの講座受講者合計12人 			
	妥当性の評価とその理由		有効性の評価とその理由		効率性の評価とその理由			
	A:妥当である	各事業とも、市民の生涯学習活動を推進するために必要な事業であり妥当である。	A:有効である	講座の開催や各種広報誌の発行などを通して多角的に生涯学習の推進を行うことができおり有効である。	A:効率的である	市民カレッジについては、専門的な講座を地域にいながら受講できる点で効率的な運営が図られている。		
	「情報の共有」の状況とその理由		「参加」の状況とその理由		「協働」の状況とその理由			
	A:実現している	生涯学習ガイドブック・自主グループ一覧表等を作成し、学習機会の提供を求め市民に適切に提供されている。	A:実現している	生涯学習推進協議会において市民が委員として生涯学習の推進に関する審議をしている。	A:実現している	ハロータウンの編集委員として職員とボランティアが協働して編集作業にあたり生涯学習情報の提供に努めている。		
	所管による評価とその理由、課題・問題点							
B:ある程度の成果を挙げた(達成度4割~7割)	新型コロナウイルス感染症の影響により、市民カレッジ開催数が半減した。また、感染を恐れ参加を控えた市民が多かったため、講座の参加者自体も低迷した。							
企画政策課での評価とその理由								
B:ある程度の成果を挙げた(達成度4割~7割)	新型コロナウイルス感染症の影響はあるが、概ね一定の成果を挙げていると認められる。今後は、市民の学習に対するニーズに応えた取組を実施するとともに、ウィズコロナに対応した実施方法を検討するなど、学習機会の充実に努めている。							
政策調整会議での評価とその理由								
(この欄は斜線が入ります)								
庁議における方針								
(この欄は斜線が入ります)								

ACT (改善)	令和3年度活動指標(アウトプット)の設定				令和3年度成果指標(アウトカム)の設定			
	<ul style="list-style-type: none"> 講座の開催回数 広報誌の発行部数 				<ul style="list-style-type: none"> 講座の受講者数 			
令和3年度における具体的な目標				令和3年度における事務事業スケジュール				
学習活動参加者の増加を図る				<ul style="list-style-type: none"> 生涯学習推進協議会の開催(年1回) 市民カレッジの開催(全7回) 学社融合事業の実施(新治小学校) ハローウィンドウの発行(年2回) ハロータウンの発行(年3回) 				

令和2年度 事務事業整理シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
1	01	02	01	茂原市地域未来塾

予算科目				
款	項	目	事	事業名
9	05	01	13	地域未来塾事業

実施計画整理番号	
101020101	
総合戦略 整理番号	0

事務事業の概要	
事業の目的(【だれ・何】を【どのような状態】にするか) 学習が遅れがちな中学3年生を対象として、自主的な学習をサポートするための教室を開き、学習環境の充実を図る。	活動内容(目的を達成するために何を行うか) 学習が遅れがちな中学生に学習機会を提供し、学習習慣の確立と基礎学力の定着を図る。
令和2年度の具体的な目標	令和2年度スケジュール
市内全6中学校区の生徒を対象に実施する。	期間:8月~2月 市内2会場、各25回実施

区分	単位	H29年度			H30年度			令和元年度			令和2年度			
		計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算	
事業費	千円	0	0	0	0	461	384	462	462	361	616	463	280	
財源内訳	国補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	県補助	千円	0	0	0	0	307	255	307	307	241	409	0	0
	市債	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	その他	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	一般財源	千円	0	0	0	0	154	129	155	155	120	207	463	280

個別取組	内容	取組に係る費用(千円)			個別取組の達成状況及び今後の方向性
		計画	予算	決算	
①	地域未来塾の運営	616	463	280	市内全中学3年生を対象に、茂原会場で16回、本納会場で17回開講。現状維持。
②					
③					
④					
⑤					
⑥					
⑦					
⑧					
⑨					
⑩					
事業費計		616	463	280	

令和2年度の実施状況(事務事業の実施内容等を箇条書きで具体的に記入)

・茂原会場 期間:10/2~2/20 毎週土曜日 会場:中央公民館 参加生徒数:17名 実施回数:16回
 ・本納会場 期間:10/2~2/20 毎週土曜日 会場:本納公民館 参加生徒数:5名 実施回数:17回

PLAN(計画)

DO(実施)

令和2年度 事務事業評価シート

基本計画					予算科目				整理番号	
章	節	項	細	実施計画事業名	款	項	目	事	事業名	101020101
1	01	02	01	茂原市地域未来塾	9	05	01	13	地域未来塾事業	

CHECK (評価)	令和2年度活動指標(アウトプット)の達成状況				令和2年度成果指標(アウトカム)の達成状況			
	・実施回数 2会場合計33回 ※新型コロナウイルス感染症の影響により夏期休業期間に大幅な短縮が生じたため実施回数が減となった。				・アンケートで学習習慣が身に付いたと答えた生徒の割合 80%			
	妥当性の評価とその理由		有効性の評価とその理由		効率性の評価とその理由			
	A:妥当である	総合計画内「学習ニーズに応じた学習機会の充実」に該当するため妥当である。	A:有効である	毎週開講することで、学習習慣が身につくため有効である。	A:効率的である	令和2年度より学校区で区切らず、対象を市内全中学3年生としたため効率的である。		
	「情報の共有」の状況とその理由		「参加」の状況とその理由		「協働」の状況とその理由			
	A:実現している	市内全中学3年生に対し募集をしている。	A:実現している	講師として市民が参加しており、運営方法についても意見を頂いている。	A:実現している	勉強方法など、学習習慣の確立に向けて参加生徒にアドバイスを行っている。		
	所管による評価とその理由、課題・問題点							
B:ある程度の成果を挙げた(達成度4割~7割)	対象者を市内全中学3年生とし参加者増となったが、新型コロナウイルス感染症の影響により夏季休業期間が大幅に短縮されたため地域未来塾の開催日数が当初予定の7割弱となった。							
企画政策課での評価とその理由								
B:ある程度の成果を挙げた(達成度4割~7割)	新型コロナウイルス感染症の影響はあるが、概ね一定の成果があったと認められる。より一層対象生徒の参加を促すとともに、ウィズコロナに対応した学習の場の提供についても検討いただきたい。							
政策調整会議での評価とその理由								
庁議における方針								

ACT (改善)	令和3年度活動指標(アウトプット)の設定				令和3年度成果指標(アウトカム)の設定			
	・実施回数				・アンケートで学習習慣が身に付いたと答えた生徒の割合			
令和3年度における具体的な目標				令和3年度における事務事業スケジュール				
参加者の増加				期間:8月~2月 市内2会場 各25回実施				

令和2年度 事務事業整理シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
1	02	01	02	子育て支援事業

予算科目				
款	項	目	事	事業名
9	04	01	6	子育て支援事業

実施計画整理番号	
102010201	
総合戦略整理番号	0

PLAN (計画)	事務事業の概要	
	事業の目的(【だれ・何】を【どのような状態】にするか)	活動内容(目的を達成するために何を行うか)
	<p>幼児期の子どもを持つ保護者の子育てに関する悩みやストレスを軽減させ、家庭教育を充実させる。</p>	<p>地域における子育て支援センターとして開かれた幼稚園づくりを推進する。</p>
	令和2年度の具体的な目標	令和2年度スケジュール
	<ul style="list-style-type: none"> ・未就園児及び保護者のための遊び場や保護者同士の交流の場を提供する。 ・保護者と幼稚園との協力関係を形成する。 	<p>公立幼稚園2園が、6月から12月(8月を除く)に各園独自の内容でふれあい広場を開催する予定。</p>

区分	単位	H29年度			H30年度			令和元年度			令和2年度		
		計画	予算	決算									
事業費	千円	320	320	320	243	240	234	240	240	232	240	190	185
財源内訳	国補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	県補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	市債	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	一般財源	千円	320	320	320	243	240	234	240	240	232	240	190

DO (実施)	個別取組	内容	取組に係る費用(千円)			個別取組の達成状況及び今後の方向性
			計画	予算	決算	
	①	ふれあい広場事業	240	190	185	地域のニーズに応え、地域に根ざした子育て支援を実施した。
	②					
	③					
	④					
	⑤					
	⑥					
	⑦					
	⑧					
	⑨					
⑩						
事業費計			240	190	185	

令和2年度の実施状況(事務事業の実施内容等を箇条書きで具体的に記入)

公立幼稚園2園において遊具やおもちゃで遊んだり、各園独自の内容による「わらべ歌」「絵本の読み聞かせ」「人形劇」などを実施した。

令和2年度 事務事業評価シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
1	02	01	02	子育て支援事業

予算科目				
款	項	目	事	事業名
9	04	01	6	子育て支援事業

整理番号
102010201

CHECK (評価)	令和2年度活動指標(アウトプット)の達成状況		令和2年度成果指標(アウトカム)の達成状況			
	ふれあい広場の開催回数 延べ10回		参加した未就園児・保護者の延べ人数 延べ244人 (五郷116人 新茂原128人)			
	妥当性の評価とその理由		有効性の評価とその理由		効率性の評価とその理由	
	A:妥当である	子育てふれあい広場や子育て相談などの子育て支援事業は、基本計画にも位置づけられている。	A:有効である	地域の子育て支援に対するニーズに応じている。	A:効率的である	未就園児とその保護者を対象として、効率的な実施に努めている。
	「情報の共有」の状況とその理由		「参加」の状況とその理由		「協働」の状況とその理由	
	B:実現に向けて取り組んでいる	広報、各幼稚園で事業実施の周知をしている。	A:実現している	参加した保護者は、気軽に子育て相談をすることができる。	C:実現の余地がない	行政が行う子育て世帯のための事業である。
	所管による評価とその理由、課題・問題点					
	A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)	各公立幼稚園において、未就園児のための遊び場や保護者同士の交流の場を提供することができた。				
	企画政策課での評価とその理由					
	A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)	本事業は、未就園児及び保護者のための交流の場の提供と家庭教育に関する悩みの解消に一定の成果があると認められる。引き続き、家庭教育の充実に努めるとともに、広報・市公式フェイスブックなどによる効果的な周知を図っていただきたい。				
政策調整会議での評価とその理由						
(この欄は斜線が入ります)						
庁議における方針						
(この欄は斜線が入ります)						

ACT (改善)	令和3年度活動指標(アウトプット)の設定		令和3年度成果指標(アウトカム)の設定	
	・ふれあい広場の開催回数		参加した未就園児・保護者の延べ人数	
令和3年度における具体的な目標		令和3年度における事務事業スケジュール		
公立幼稚園が、6月から12月(8月を除く)に各園独自の内容でふれあい広場を開催する予定。		<ul style="list-style-type: none"> ・未就園児及び保護者のための遊び場や保護者同士の交流の場を提供する。 ・保護者と幼稚園との協力関係を形成する。 		

令和2年度 事務事業整理シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
1	03	01	01	中学校施設整備事業

予算科目				
款	項	目	事	事業名
9	03	03	01	中学校施設整備事業

実施計画整理番号	
103010102	
総合戦略整理番号	0

事務事業の概要	
事業の目的(【だれ・何】を【どのような状態】にするか) 老朽化の激しい学校施設について、大規模改造工事を実施し、学習空間の改善を図る。	活動内容(目的を達成するために何を行うか) 中学校施設の大規模改造工事
令和2年度の具体的な目標 ・I期工事を完了させ、II期工事に着手する。 ・継続して学校や業者との協議に努める。 ・交付金や起債など、財源確保に向けた各種申請手続きを行う。	令和2年度スケジュール ・繰越した大規模改造工事のI期工事を実施し、完了させる。 ・I期工事完了後、速やかにII期工事に着手し、12月に完了させる。 ・継続した協議(市・学校・工事監理業者・施工業者)

区分	単位	H29年度			H30年度			令和元年度			令和2年度			
		計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算	
事業費	千円	0	0	0	0	34,560	34,560	628,276	566,770	245,371	402,688	731,608	731,607	
財源内訳	国補助	千円	0	0	0	0	0	158,299	158,299	66,107	141,406	220,367	232,987	
	県補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	市債	千円	0	0	0	0	24,000	23,300	374,700	374,700	127,900	215,700	399,000	373,000
	その他	千円	0	0	0	0	0	0	10,000	10,000	10,000	10,000	0	0
	一般財源	千円	0	0	0	0	10,560	11,260	85,277	23,771	41,364	35,582	112,241	125,620

個別取組	内容	取組に係る費用(千円)			個別取組の達成状況及び今後の方向性
		計画	予算	決算	
①	中学校大規模改造工事	402,688	731,608	731,607	富士見中学校大規模改造工事(I期工事及びII期工事)の完了。今後も適正な維持管理に努める。
②					
③					
④					
⑤					
⑥					
⑦					
⑧					
⑨					
⑩					
事業費計		402,688	731,608	731,607	

令和2年度の実施状況(事務事業の実施内容等を箇条書きで具体的に記入)	
・富士見中学校の大規模改造工事(繰越したI期工事及びII期工事)を完了させた。 ・継続した協議(市・学校・工事監理業者・施工業者)を実施した。 ・交付金や起債の事務手続きを行い、財源の確保に努めた。	

令和2年度 事務事業評価シート

基本計画					予算科目					整理番号
章	節	項	細	実施計画事業名	款	項	目	事	事業名	103010102
1	03	01	01	中学校施設整備事業	9	03	03	01	中学校施設整備事業	

令和2年度活動指標(アウトプット)の達成状況	令和2年度成果指標(アウトカム)の達成状況
I 期工事及び II 期工事 完了	工事進捗率(I 期) 100% 工事進捗率(II 期) 100%

妥当性の評価とその理由	有効性の評価とその理由	効率性の評価とその理由
A:妥当である 老朽化した学校施設を整備し、子どもたちの教育環境の充実を図る事業である。	A:有効である 大規模改造工事を実施することにより、学校施設の維持管理が充実し、子ども達の安全性の確保が図れた。	B:やや効率的である 国の交付金や起債を活用することにより、財政負担を軽減できた。しかし、物価上昇などのコスト増の要因や現在の財政状況から一部実施できない工事箇所があった。

「情報の共有」の状況とその理由	「参加」の状況とその理由	「協働」の状況とその理由
A:実現している 学校の先生方と十分な協議を実施。学校を通して保護者などへの周知。	A:実現している 子ども達や先生方に対して改修に向けてのアンケートを実施し、結果を反映させた。	A:実現している 学校の先生方と工事期間中の学校運営についてなどの問題解決に取り組んだ。

所管による評価とその理由、課題・問題点	
A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)	富士見中学校の大規模改造工事(I 期・II 期)を完了させ、学習空間の改善を図ることができた。今後は適正な維持管理に努める必要がある。また、他の学校施設についても老朽化が著しいため、今後も計画的に整備し、教育環境の充実を図っていく。

企画政策課での評価とその理由	
A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)	大規模改造工事が完了したことで当初の目的は達成したと認められる。今後は適正な維持管理に努めるとともに、学校施設の計画的・効率的な整備により、教育環境の充実を図っていただきたい。

政策調整会議での評価とその理由	
	(この欄は斜線が入ります)

庁議における方針	
	(この欄は斜線が入ります)

令和3年度活動指標(アウトプット)の設定	令和3年度成果指標(アウトカム)の設定
令和3年度は未実施	令和3年度は未実施

令和3年度における具体的な目標	令和3年度における事務事業スケジュール
令和3年度は未実施	令和3年度は未実施

CHECK (評価)

ACT (改善)

令和2年度 事務事業整理シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
1	03	01	01	小学校施設整備事業(本納地区小中一貫型校)

予算科目				
款	項	目	事	事業名
9	02	03	02	小学校施設整備事業

実施計画整理番号	
103010103	
総合戦略整理番号	0

事務事業の概要	
事業の目的(【だれ・何】を【どのような状態】にするか)	活動内容(目的を達成するために何を行うか)
本納小学校裏の崖が土砂災害警戒区域等に指定されることを受けて、本納中学校敷地内に新校舎(8教室及び配膳室)を建設し、本納小学校を移転させ、児童等の安全を確保する。また、特色ある教育を目指し、小中一貫型校の導入を進めていく。	本納中学校敷地内に新校舎(8施設及び配膳室)を建設し、本納小学校を移転する。
令和2年度の具体的な目標	令和2年度スケジュール
<ul style="list-style-type: none"> ・新校舎建設工事に着手する。 ・移転について、保護者や地域住民の理解を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新校舎建設工事の契約を締結し、工事に着手する。 ・継続して学校との協議に努める。 ・保護者や地域住民に対して、移転についての説明会を実施する。

区分	単位	H29年度			H30年度			令和元年度			令和2年度			
		計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算	
事業費	千円	0	0	0	0	0	0	18,648	18,648	17,600	336,073	523,731	182,193	
財源内訳	国補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	75,508	101,469	38,412	
	県補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	市債	千円	0	0	0	0	0	0	13,900	13,900	12,900	192,000	331,600	113,500
	その他	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	一般財源	千円	0	0	0	0	0	0	4,748	4,748	4,700	68,565	90,662	30,281

個別取組	内容	取組に係る費用(千円)			個別取組の達成状況及び今後の方向性
		計画	予算	決算	
①	本納地区小中一貫型校校舎建設工事	336,073	523,731	182,193	本納小学校の新校舎建設について契約を締結し工事に着手した。令和3年9月1日の移転に向け継続して事業を進めていく。
②					
③					
④					
⑤					
⑥					
⑦					
⑧					
⑨					
⑩					
事業費計		336,073	523,731	182,193	

令和2年度の実施状況(事務事業の実施内容等を箇条書きで具体的に記入)

- ・本納地区小中一貫型校校舎建設工事の契約を締結し工事に着手した。
- ・本納地区小中一貫型校校舎建設工事監理業務委託契約を締結した。
- ・建設工事に伴い、建築基準法第7条の3に基づく中間検査を実施した。
- ・保護者や住民、生徒に対して移転についての説明会を実施した。
- ・国の負担金について申請手続きを行った。
- ・移転に向けての協議を学校と実施した。

令和2年度 事務事業評価シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
1	03	01	01	小学校施設整備事業(本納地区小中一貫型校)

予算科目				
款	項	目	事	事業名
9	02	03	02	小学校施設整備事業

整理番号
103010103

CHECK (評価)	令和2年度活動指標(アウトプット)の達成状況		令和2年度成果指標(アウトカム)の達成状況			
	新校舎建設工事に着手した。		工事進捗率 53.4%(令和3年3月末時点)			
	妥当性の評価とその理由		有効性の評価とその理由		効率性の評価とその理由	
	A:妥当である	本納中学校敷地内に新校舎を建設し、子ども達の安全を確保する事業である。	A:有効である	新校舎を建設することにより、子どもたちの安全が確保され、また、小中一貫教育を導入することで学力の向上はもとより、生活面や部活動等、様々な場面での教育効果が期待できる。	A:効率的である	国の負担金や交付税措置のある起債を活用することにより、財政負担を軽減できる。また、中学校の空き教室を利用することにより、新校舎建設に係る費用を削減できる。
	「情報の共有」の状況とその理由		「参加」の状況とその理由		「協働」の状況とその理由	
	B:実現に向けて取り組んでいる	保護者や地域住民、生徒等に対して移転や建設についての説明会を実施した。また、学校の先生方と十分な協議を実施した。今後も引き続き情報の共有に努めていく。	B:実現に向けて取り組んでいる	保護者や地域住民、生徒等に対して移転や建設についての説明会を実施した。また、生徒に対して移転についてのアンケートを実施した。	B:実現に向けて取り組んでいる	学校の先生方と工事期間中の学校運営や、新校舎で必要となるものについての協議に取り組んでいる。
	所管による評価とその理由、課題・問題点					
	A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)	新校舎建設工事及び工事監理業務委託の契約を締結し、工事に着手、計画どおりに工事を進めることができた。令和3年度では引き続き、令和3年9月1日の移転に向け事業を進めていく。なお、移転については、地域住民や保護者から様々な意見をいただいているため、今後も丁寧な説明に努める必要がある。				
	企画政策課での評価とその理由					
	A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)	計画どおり事業が実施されており、目的は達成されていると判断できる。引き続き、理解を得られるよう地域住民や保護者に対する丁寧な説明に努め、より良い小中一貫型校の推進を図っていただきたい。				
政策調整会議での評価とその理由						
(この欄は斜線が入ります)						
庁議における方針						
(この欄は斜線が入ります)						

ACT (改善)	令和3年度活動指標(アウトプット)の設定		令和3年度成果指標(アウトカム)の設定	
	本納小学校新校舎へ令和3年9月1日の移転 移転に伴う本納中学校敷地内整備の実施		児童等の安全確保 教育環境の充実	
	令和3年度における具体的な目標		令和3年度における事務事業スケジュール	
<ul style="list-style-type: none"> ・令和3年9月1日の移転に向け、新校舎建設工事を工期内に完了させる。 ・生徒や保護者、地域住民に対して引き続き丁寧に説明していく。 ・本納中学校敷地内整備を実施し、教育環境の充実を図る。 		<ul style="list-style-type: none"> ・新校舎建設工事を完了させ移転作業を実施。(引っ越し等)。 ・保護者に対して移転に向けた文書を送付。 ・新校舎の竣工に伴い、内覧会等を実施。 ・本納中学校敷地内整備(駐車場・遊具・体育器具等)を実施。 ・財源確保に向け、交付金や起債などの各種手続きを行う。 		

令和2年度 事務事業整理シート

基本計画			
章	節	項	細
実施計画事業名			
1	03	03	01 (小)学校教育支援事業

予算科目			
款	項	目	事
事業名			
9	02	02	04 学校教育支援事業

実施計画整理番号	
103030101	
総合戦略整理番号	0

事務事業の概要	
事業の目的(【だれ・何】を【どのような状態】にするか) 学校の教育環境について、ソフト面において支援を行い、円滑な学校教育を推進する。	活動内容(目的を達成するために何を行うか) ボランティアや相談員等を配置、斡旋する。
令和2年度の具体的な目標 ・児童のストレスを緩和する。 ・ボランティアの活用促進により、教員の事務負担を軽減する。 ・複式学級を解消する。	令和2年度スケジュール ・心の教室相談員の配置。 ・学校支援ボランティアの活用。 ・市費による臨時的任用講師の配置。

区分	単位	H29年度			H30年度			令和元年度			令和2年度		
		計画	予算	決算									
事業費	千円	4,309	1,079	1,068	4,309	4,324	4,192	4,286	4,286	4,180	4,286	4,271	4,254
財源内訳	国補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	県補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	市債	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	一般財源	千円	4,309	1,079	1,068	4,309	4,324	4,192	4,286	4,286	4,180	4,286	4,271

個別取組	内容	取組に係る費用(千円)			個別取組の達成状況及び今後の方向性
		計画	予算	決算	
①	心の教室相談員の配置	916	916	907	児童・教職員の相談にのることでストレスが和らぎ、心にゆとりが持てた。今後はスクールカウンセラー未配置校全校に配置できることが望ましい。
②	学校支援ボランティアの活用	130	110	103	学校内外を支援することで児童・教職員が円滑に学校生活を送れるようになった。今後も同様に継続する必要性がある。
③	臨時的任用講師の配置	3,240	3,245	3,244	複式学級解消のため、市費にて講師を配置した。講師の配置は、毎年見直しが必要である。
④					
⑤					
⑥					
⑦					
⑧					
⑨					
⑩					
事業費計		4,286	4,271	4,254	

令和2年度の実施状況(事務事業の実施内容等を箇条書きで具体的に記入)

- ・心の教室相談員を小学校4校に週1～2回(年224時間)配置。
- ・学校支援ボランティアを植木の剪定、雑草の除草、登下校のパトロール、図書の読み聞かせ等で全14校において活用。
- ・複式学級解消のため、市費にて講師を配置した。

令和2年度 事務事業評価シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
1	03	03	01	(小)学校教育支援事業

予算科目				
款	項	目	事	事業名
9	02	02	04	学校教育支援事業

整理番号
103030101

CHECK (評価)	令和2年度活動指標(アウトプット)の達成状況		令和2年度成果指標(アウトカム)の達成状況			
	<ul style="list-style-type: none"> ・児童のストレス緩和のための相談員配置数 4校 各1人 ・臨時的任用講師の配置人数 1校 1人 		<ul style="list-style-type: none"> ・4校で約1,000件/年の相談を受け、児童のストレス緩和を支援した。 			
	妥当性の評価とその理由		有効性の評価とその理由		効率性の評価とその理由	
	A:妥当である	円滑な学校教育を推進するために必要な支援であり、妥当である。	A:有効である	心の教室相談員の人数と配置について見直しの余地がある。	A:効率的である	ボランティアの活用等により効率的な事業実施に努めた。
	「情報の共有」の状況とその理由		「参加」の状況とその理由		「協働」の状況とその理由	
	C:実現の余地がない	個人情報を取り扱うため難しい。	B:実現に向けて取り組んでいる	学校支援ボランティアの意見を取り入れる機会を設けている。	B:実現に向けて取り組んでいる	学校支援ボランティアの意見を取り入れながら、問題解決に取り組んでいる。
	所管による評価とその理由、課題・問題点					
	A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)	<ul style="list-style-type: none"> ・相談員の配置やボランティアの活用、また市費による臨時的任用講師の配置により学校における教育環境の整備を図ることができ、児童や教職員の心的・肉体的負担が軽減された。 ・心の教室相談員は、県事業のスクールカウンセラーと合わせてもまだ全校に配置されていないため、配置について見直しの余地がある。 				
	企画政策課での評価とその理由					
	A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)	<ul style="list-style-type: none"> ・児童のストレス緩和、教員の事務負担の軽減に一定の成果があると認められる。引き続き、相談員、学校支援ボランティア等との連携を図り、教育環境の向上に努めていただきたい。 				
政策調整会議での評価とその理由						
庁議における方針						

ACT (改善)	令和3年度活動指標(アウトプット)の設定		令和3年度成果指標(アウトカム)の設定	
	<ul style="list-style-type: none"> ・心の教室相談員の配置校数、人数 ・臨時的任用講師の配置校数、人数 		<ul style="list-style-type: none"> ・心の教室相談員への相談件数 	
令和3年度における具体的な目標		令和3年度における事務事業スケジュール		
<ul style="list-style-type: none"> ・心の教室相談員の配置。 ・学校支援ボランティアの活用。 ・市費による臨時的任用講師の配置。 		<ul style="list-style-type: none"> ・児童のストレスを緩和する。 ・ボランティアの活用促進により、教員の負担を軽減する。 ・複式学級を解消する。 		

令和2年度 事務事業整理シート

基本計画			
章	節	項	細
実施計画事業名			
1	03	03	01 (中)学校教育支援事業

予算科目			
款	項	目	事
事業名			
9	03	02	04 学校教育支援事業

実施計画整理番号	
103030102	
総合戦略整理番号	0

事務事業の概要	
事業の目的(【だれ・何】を【どのような状態】にするか)	活動内容(目的を達成するために何を行うか)
学校の教育環境について、ソフト面において支援を行い、円滑な学校教育を推進する。	ボランティアや相談員等を配置、斡旋する。
令和2年度の具体的な目標	令和2年度スケジュール
<ul style="list-style-type: none"> 生徒のストレスを緩和する。 ボランティアの活用促進により、教員の事務負担を軽減する。 	<ul style="list-style-type: none"> 適応指導教室の継続的な設置。 学校支援ボランティアの活用。 大会等への参加支援。

区分	単位	H29年度			H30年度			令和元年度			令和2年度			
		計画	予算	決算										
事業費	千円	2,108	2,108	2,079	2,108	2,108	2,098	2,198	2,198	2,026	2,178	2,714	2,135	
財源内訳	国補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	県補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	市債	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	その他	千円	0	0	132	0	132	0	0	0	0	132	0	0
	一般財源	千円	2,108	2,108	1,947	2,108	1,976	2,098	2,198	2,198	2,026	2,046	2,714	2,135

個別取組	内容	取組に係る費用(千円)			個別取組の達成状況及び今後の方向性
		計画	予算	決算	
①	適応指導教室の運営	1,800	2,322	1,860	不登校児童生徒の学校復帰支援を図り、12名が進学先の決定や学校復帰を果たした。また学校復帰していない児童生徒もいるため、今後も継続する必要がある。 学校内外を支援することで生徒・教職員が円滑に学校生活を送れるようになった。今後も同様に継続する必要がある。 大会等に参加することで一人一人の個を活かし、また、継続することで個の伸長と学習意欲の向上を図った。
②	学校支援ボランティアの活用	28	39	17	
③	各種競技大会及びコンクール参加支援	350	570	258	
④					
⑤					
⑥					
⑦					
⑧					
⑨					
⑩					
事業費計		2,178	2,931	2,135	

令和2年度の実施状況(事務事業の実施内容等を箇条書きで具体的に記入)

- ・豊田・五郷福祉センターに適応指導教室をおき、計29名の児童生徒が在籍し、12名が進学先の決定や学校復帰を果たした。
- ・学校支援ボランティアを植木の剪定、雑草の除草、登下校のパトロール等に活用。

令和2年度 事務事業評価シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
1	03	03	01	(中)学校教育支援事業

予算科目				
款	項	目	事	事業名
9	03	02	04	学校教育支援事業

整理番号
103030102

CHECK (評価)	令和2年度活動指標(アウトプット)の達成状況		令和2年度成果指標(アウトカム)の達成状況			
	<ul style="list-style-type: none"> ・適応指導教室は、昨年度と同様2か所設置した。 ・全中学校へ大会等への参加を支援した。 		<ul style="list-style-type: none"> ・学校復帰等の好転がみられた児童生徒数 12人 			
	妥当性の評価とその理由		有効性の評価とその理由		効率性の評価とその理由	
	A:妥当である	円滑な学校教育を推進するために必要な支援であり、妥当である。	A:有効である	適応指導教室の入級児童生徒数により、指導員の適正人数、配置に見直しの余地がある。	A:効率的である	ボランティアの活用等により効率的な事業実施に努めた。
	「情報の共有」の状況とその理由		「参加」の状況とその理由		「協働」の状況とその理由	
	C:実現の余地がない	個人情報を取り扱うため難しい。	B:実現に向けて取り組んでいる	学校支援ボランティアの意見を取り入れる機会を設けている。	B:実現に向けて取り組んでいる	学校支援ボランティアの意見を取り入れながら、問題解決に取り組んでいる。
	所管による評価とその理由、課題・問題点					
	A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)	各学校における教育環境の整備を図ることができ、不登校状態が続いていた児童生徒の適切な学校復帰支援もできた。しかし、児童生徒側のニーズが多様化しており、特別支援の専門知識も必要とされているため、指導員の適正人数の見直しも必要である。				
	企画政策課での評価とその理由					
	A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)	生徒のストレス緩和及び教員の負担軽減に一定の成果があると認められる。引き続き、相談員、学校支援ボランティア等と連携を図り、教育環境の向上に努めていただきたい。				
政策調整会議での評価とその理由						
庁議における方針						

ACT (改善)	令和3年度活動指標(アウトプット)の設定		令和3年度成果指標(アウトカム)の設定	
	<ul style="list-style-type: none"> ・適応指導教室の設置数 ・大会等への参加支援校数 		<ul style="list-style-type: none"> ・学校復帰等の好転がみられた児童生徒数 	
令和3年度における具体的な目標		令和3年度における事務事業スケジュール		
<ul style="list-style-type: none"> ・適応指導教室の継続的な設置。 ・学校支援ボランティアの活用。 ・大会等への参加支援。 		<ul style="list-style-type: none"> ・生徒のストレスを緩和する。 ・ボランティアの活用促進により、教員の負担を軽減する。 		

令和2年度 事務事業整理シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
1	03	03	03	(小)国際教育推進事業

予算科目				
款	項	目	事	事業名
9	02	02	06	国際教育推進事業

実施計画整理番号	
103030301	
総合戦略整理番号	22303

事務事業の概要	
事業の目的(【だれ・何】を【どのような状態】にするか) 児童が外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しみ、コミュニケーション能力の素地を身に付けられるようにする。	活動内容(目的を達成するために何を行うか) ALTの派遣。
令和2年度の具体的な目標	令和2年度スケジュール
・ALTの民間委託により、6名を全小学校に派遣する。 ・ALTを活用した教員の指導力向上のための研修を実施する。	・全小学校の児童が等しくALTと触れ合える機会を提供する。

区分	単位	H29年度			H30年度			令和元年度			令和2年度		
		計画	予算	決算									
事業費	千円	12,960	12,923	11,418	12,960	11,423	11,422	29,430	22,367	22,367	29,430	22,572	22,572
財源内訳	国補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	県補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	市債	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	一般財源	千円	12,960	12,923	11,418	12,960	11,423	11,422	29,430	22,367	22,367	29,430	22,572

個別取組	内容	取組に係る費用(千円)			個別取組の達成状況及び今後の方向性
		計画	予算	決算	
①	ALTの派遣	29,430	22,572	22,572	6名のALTを全小学校に派遣し、外国語活動の充実を図った。
②					
③					
④					
⑤					
⑥					
⑦					
⑧					
⑨					
⑩					
事業費計		29,430	22,572	22,572	

令和2年度の実施状況(事務事業の実施内容等を箇条書きで具体的に記入)

6名のALTを全小学校に派遣した。

令和2年度 事務事業評価シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
1	03	03	03	(小)国際教育推進事業

予算科目				
款	項	目	事	事業名
9	02	02	06	国際教育推進事業

整理番号
103030301

CHECK (評価)	令和2年度活動指標(アウトプット)の達成状況		令和2年度成果指標(アウトカム)の達成状況			
	ALTを全小学校に派遣した。		各小学校の3年～6年までの授業にALTを配置した。			
	妥当性の評価とその理由		有効性の評価とその理由		効率性の評価とその理由	
	A:妥当である	社会の急激な変化の中で、国際化に対応した教育の充実が必要であるため。	A:有効である	ALTによる授業は、コミュニケーションと国際理解の機会を直接与える有効な手段である。	A:効率的である	民間委託により、コストの削減を図った。
	「情報の共有」の状況とその理由		「参加」の状況とその理由		「協働」の状況とその理由	
	A:実現している	広報等で周知した。	C:実現の余地がない	行政のみでしか実現できない事業。	C:実現の余地がない	行政のみでしか実現できない事業。
	所管による評価とその理由、課題・問題点					
	A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)	外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませながら、コミュニケーション能力の素地を養い、国際理解教育を推進できた。				
	企画政策課での評価とその理由					
	A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)	児童の外国語及びコミュニケーション能力の習得に一定の成果を挙げていると認められる。引き続き、全小学校の児童がALTと触れ合える機会を提供し、国際理解への機会及び変化する社会で活躍する力の創出につながるよう、努めている。いただきたい。				
政策調整会議での評価とその理由						
(この欄は斜線が入ります)						
庁議における方針						
(この欄は斜線が入ります)						
A C T (改善)	令和3年度活動指標(アウトプット)の設定		令和3年度成果指標(アウトカム)の設定			
	・学校の授業計画に沿ってALTを派遣		・全小学校の児童がALTと触れ合う機会の提供。			
令和3年度における具体的な目標		令和3年度における事務事業スケジュール				
・ALTの民間委託により、6名を全小学校に派遣する。 ・ALTを活用した教員の指導力向上のための研修を実施する。		・全小学校の児童が等しくALTと触れ合える機会を提供する。				

令和2年度 事務事業整理シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
1	03	03	03	(中)国際教育推進事業

予算科目				
款	項	目	事	事業名
9	03	02	06	国際教育推進事業

実施計画整理番号	
103030302	
総合戦略 整理番号	22303

事務事業の概要	
事業の目的(【だれ・何】を【どのような状態】にするか) 生徒が外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しみ、コミュニケーション能力の素地を身に付けられるようにする。 生徒に外国の文化、風土、習慣等を自らの肌で感じさせ、国際的視野を広めさせるとともに語学力の向上を図る。	活動内容(目的を達成するために何を行うか) ALTの派遣。 中学生を海外に派遣し、ホームステイによる異文化交流を図る。
令和2年度の具体的な目標 ・ALTの民間委託により、4名を全中学校に派遣する。 ・海外派遣で、28名の中学生をオーストラリアに派遣する。 ・ALTを活用した教員の指導力向上のための研修を実施する。	令和2年度スケジュール ・全中学校の生徒が等しくALTと触れ合える機会を提供する。 ・生徒が海外での学校生活やホームステイを通して外国の文化や習慣に触れ、国際感覚を身に付けることができるよう環境を整える。

区分	単位	H29年度			H30年度			令和元年度			令和2年度		
		計画	予算	決算									
事業費	千円	20,980	20,980	18,824	21,005	18,955	18,939	23,320	18,612	18,511	23,320	18,763	15,058
財源内訳	国補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	県補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	市債	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	一般財源	千円	20,980	20,980	18,824	21,005	18,955	18,939	23,320	18,612	18,511	23,320	18,763

個別取組	内容	取組に係る費用(千円)			個別取組の達成状況及び今後の方向性
		計画	予算	決算	
①	ALTの派遣	19,620	15,063	15,058	4名のALTを全中学校に派遣し、実践的英語指導を通じコミュニケーション能力の基礎を養った。今後も、ネイティブ・スピーカーの活用等指導体制の充実が必要である。
②	中学生の海外派遣	3,700	3,700	0	新型コロナウイルス感染症により、海外派遣事業は中止とした。今後は、状況を注視しつつ、国際感覚を身に付けた青少年を育成するために、事業を継続する必要がある。
③					
④					
⑤					
⑥					
⑦					
⑧					
⑨					
⑩					
事業費計		23,320	18,763	15,058	

令和2年度の実施状況(事務事業の実施内容等を箇条書きで具体的に記入)

- ・4名のALTを全中学校に派遣した。
- ・新型コロナウイルス感染症により、海外派遣事業は中止とした。

令和2年度 事務事業評価シート

基本計画					予算科目				整理番号	
章	節	項	細	実施計画事業名	款	項	目	事	事業名	103030302
1	03	03	03	(中)国際教育推進事業	9	03	02	06	国際教育推進事業	

CHECK (評価)	令和2年度活動指標(アウトプット)の達成状況				令和2年度成果指標(アウトカム)の達成状況			
	<ul style="list-style-type: none"> ALTを全中学校に派遣した。 全中学校の2・3年生を対象とした海外派遣事業は、新型コロナウイルス感染症により中止とした。 				<ul style="list-style-type: none"> ALTを年間を通じて派遣 海外派遣事業は中止 			
	妥当性の評価とその理由		有効性の評価とその理由		効率性の評価とその理由			
	A:妥当である	社会の急激な変化の中で、国際化に対応した教育の充実が必要であるため。	A:有効である	ALTによる授業や海外派遣は、コミュニケーションと国際理解の機会を直接与える有効な手段である。	A:効率的である	民間委託により、コストの削減を図った。		
	「情報の共有」の状況とその理由		「参加」の状況とその理由		「協働」の状況とその理由			
	A:実現している	広報等で周知した。	C:実現の余地がない	行政のみでしか実現できない事業。	C:実現の余地がない	行政のみでしか実現できない事業。		
	所管による評価とその理由、課題・問題点							
	B:ある程度の成果を挙げた(達成度4割~7割)	外国語を用いて積極的にコミュニケーションを図り、異文化交流を通じて国際理解を深めることができた。海外派遣事業は、新型コロナウイルス感染症により中止となった。						
	企画政策課での評価とその理由							
	B:ある程度の成果を挙げた(達成度4割~7割)	新型コロナウイルス感染症の影響により海外派遣事業は中止となったが、ALTを全中学校に派遣することで生徒の外国語及びコミュニケーション能力の習得に一定の成果があったと認められる。引き続き、国際社会への理解及び変化する社会で活躍できる力の創出につながるよう努めていただきたい。						
政策調整会議での評価とその理由								
庁議における方針								

ACT (改善)	令和3年度活動指標(アウトプット)の設定				令和3年度成果指標(アウトカム)の設定			
	<ul style="list-style-type: none"> 学校の授業計画にそったALTの派遣 中学2・3年生を対象とした海外派遣研修の日数 				<ul style="list-style-type: none"> 全中学校の生徒がALTと触れ合う機会の提供 海外派遣研修の人数 			
令和3年度における具体的な目標				令和3年度における事務事業スケジュール				
<ul style="list-style-type: none"> ALTの民間委託により、4名を全中学校に派遣する。 海外派遣で、28名の中学生をオーストラリアに派遣する。 ALTを活用した教員の指導力向上のための研修を実施する。 				<ul style="list-style-type: none"> 全中学校の生徒が等しくALTと触れ合える機会を提供する。 生徒が海外での学校生活やホームステイを通して外国の文化や習慣に触れ、国際感覚を身に付けることができるよう環境を整える。 				

令和2年度 事務事業整理シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
1	03	03	06	(小)総合学習推進事業

予算科目				
款	項	目	事	事業名
9	02	02	03	総合学習推進事業

実施計画整理番号	
103030601	
総合戦略整理番号	0

事務事業の概要									
P L A N (計 画)	<table border="1"> <tr> <th>事業の目的(【だれ・何】を【どのような状態】にするか)</th> <th>活動内容(目的を達成するために何を行うか)</th> </tr> <tr> <td>児童個々を生かす教育を推進し、確かな学力を育成する。</td> <td>体験学習を中心に多様な学習形態の工夫により、興味・関心を生かした教育を推進する。</td> </tr> <tr> <th>令和2年度の具体的な目標</th> <th>令和2年度スケジュール</th> </tr> <tr> <td>「総合的な学習の時間」がより効果的に運用されるよう、継続して予算支援を行う。</td> <td>児童が問題解決に主体的に取り組める態度と資質を育成する。</td> </tr> </table>	事業の目的(【だれ・何】を【どのような状態】にするか)	活動内容(目的を達成するために何を行うか)	児童個々を生かす教育を推進し、確かな学力を育成する。	体験学習を中心に多様な学習形態の工夫により、興味・関心を生かした教育を推進する。	令和2年度の具体的な目標	令和2年度スケジュール	「総合的な学習の時間」がより効果的に運用されるよう、継続して予算支援を行う。	児童が問題解決に主体的に取り組める態度と資質を育成する。
	事業の目的(【だれ・何】を【どのような状態】にするか)	活動内容(目的を達成するために何を行うか)							
	児童個々を生かす教育を推進し、確かな学力を育成する。	体験学習を中心に多様な学習形態の工夫により、興味・関心を生かした教育を推進する。							
	令和2年度の具体的な目標	令和2年度スケジュール							
「総合的な学習の時間」がより効果的に運用されるよう、継続して予算支援を行う。	児童が問題解決に主体的に取り組める態度と資質を育成する。								

区分	単位	H29年度			H30年度			令和元年度			令和2年度		
		計画	予算	決算									
事業費	千円	3,184	3,840	3,632	4,333	2,900	2,848	2,801	2,801	2,591	2,801	2,741	2,421
財源内訳	国補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	県補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	市債	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	一般財源	千円	3,184	3,840	3,632	4,333	2,900	2,848	2,801	2,801	2,591	2,801	2,741

個別取組	内容	取組に係る費用(千円)			個別取組の達成状況及び今後の方向性
		計画	予算	決算	
①	総合学習の実施	2,801	2,741	2,421	各学校で総合的な学習の時間を使い、創意工夫を図りながら実施した。
②	副読本「わたしたちの茂原」の活用	0	0	0	社会科の学習の中で3・4年生が郷土茂原を知るもっとも有効な資料であり、今後も活用していく。
③	「茂原学」検討委員会の設置	0	0	0	茂原学は出前授業と学校独自の学習を併用して実施している。検討委員会は教務主任会において代替措置をとることとする。
④					
⑤					
⑥					
⑦					
⑧					
⑨					
⑩					
事業費計		2,801	2,741	2,421	

令和2年度の実施状況(事務事業の実施内容等を箇条書きで具体的に記入)

- ・学習指導要領に基づき各学校で創意工夫を図りながら、児童の「生きる力」を育む教育を推進した。
- ・「総合的な学習の時間」でより効果的な教育活動が展開できるよう、1校あたり20万円の予算措置を行った。

D
O
(
実
施
)

令和2年度 事務事業評価シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
1	03	03	06	(小)総合学習推進事業

予算科目				
款	項	目	事	事業名
9	02	02	03	総合学習推進事業

整理番号
103030601

CHECK (評価)	令和2年度活動指標(アウトプット)の達成状況		令和2年度成果指標(アウトカム)の達成状況			
	より効率的に学習成果があげられるよう、各学校が選んだ特定分野に対し、集中的な学習を行った。		全14小学校での事業実施ができた			
	妥当性の評価とその理由		有効性の評価とその理由		効率性の評価とその理由	
	A:妥当である	学習指導要領に定められている事業であるため、市が行うことが妥当。	A:有効である	予算措置をすることにより、個々を生かす教育の推進に寄与した。	A:効率的である	消耗品や備品の購入を精査し、コストの削減に努めた。
	「情報の共有」の状況とその理由		「参加」の状況とその理由		「協働」の状況とその理由	
	B:実現に向けて取り組んでいる	確立していないため、積極的な公開には至っていない。	A:実現している	職場体験・市内見学等で市民の協力を得ている。	A:実現している	市民等から講師を招いて、授業を展開している。
	所管による評価とその理由、課題・問題点					
	A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)	いずれの取り組みも、児童の「生きる力」を育む教育の推進という目的に資するものであり、一定の成果があったものと認められる。引き続き、創意工夫を生かした教育活動を実施する必要がある。				
	企画政策課での評価とその理由					
	A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)	児童の個々を生かす「生きる力」を育む教育を推進することで、確かな学力の育成に一定の成果があったと認められる。引き続き、児童の興味・関心を生かすなど、より効果的に学習成果をあげられるよう努めていただきたい。				
政策調整会議での評価とその理由						
(この欄は斜線が入ります)						
庁議における方針						
(この欄は斜線が入ります)						

ACT (改善)	令和3年度活動指標(アウトプット)の設定		令和3年度成果指標(アウトカム)の設定	
	より効率的に学習成果があげられるよう、学校ごとに選んだ特定分野に対し、集中的な学習を行う。		全13小学校での事業実施。	
令和3年度における具体的な目標		令和3年度における事務事業スケジュール		
「総合的な学習の時間」がより効果的に運用されるよう、継続して予算支援を行う。		児童が問題解決に主体的に取り組める態度と資質を育成する。		

令和2年度 事務事業整理シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
1	03	03	06	(中)総合学習推進事業

予算科目				
款	項	目	事	事業名
9	03	02	03	総合学習推進事業

実施計画整理番号	
103030602	
総合戦略整理番号	0

事務事業の概要	
事業の目的(【だれ・何】を【どのような状態】にするか) 生徒個々を生かす教育を推進し、確かな学力を育成する。	活動内容(目的を達成するために何を行うか) 体験学習を中心に多様な学習形態の工夫により、興味・関心を生かした教育を推進する。
令和2年度の具体的な目標 「総合的な学習の時間」がより効果的に運用されるよう、継続して予算支援を行う。	令和2年度スケジュール 生徒が問題解決に主体的に取り組める態度と資質を育成する。

区分	単位	H29年度			H30年度			令和元年度			令和2年度		
		計画	予算	決算									
事業費	千円	1,401	1,401	1,299	1,401	1,401	1,334	1,401	1,401	866	1,201	1,202	1,056
財源内訳	国補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	県補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	市債	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	一般財源	千円	1,401	1,401	1,299	1,401	1,401	1,334	1,401	1,401	866	1,201	1,202

個別取組	内容	取組に係る費用(千円)			個別取組の達成状況及び今後の方向性
		計画	予算	決算	
①	総合学習の実施	1,201	1,202	1,056	各学校で総合的な学習の時間を使い、創意工夫を図りながら実施した。
②					
③					
④					
⑤					
⑥					
⑦					
⑧					
⑨					
⑩					
事業費計		1,201	1,202	1,056	

令和2年度の実施状況(事務事業の実施内容等を箇条書きで具体的に記入)

- ・学習指導要領に基づき各学校で創意工夫を図りながら、生徒の「生きる力」を育む教育を推進した。
- ・「総合的な学習の時間」でより効果的な教育活動が展開できるよう、1校あたり20万円の予算措置を行った。

令和2年度 事務事業評価シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
1	03	03	06	(中)総合学習推進事業

予算科目				
款	項	目	事	事業名
9	03	02	03	総合学習推進事業

整理番号
103030602

CHECK (評価)	令和2年度活動指標(アウトプット)の達成状況		令和2年度成果指標(アウトカム)の達成状況			
	より効率的に学習成果があげられるよう、各学校が選んだ特定分野に対し、集中的な学習を行った。		全6中学校での事業実施ができた			
	妥当性の評価とその理由		有効性の評価とその理由		効率性の評価とその理由	
	A:妥当である	学習指導要領に定められている事業であるため、市が行うことが妥当。	A:有効である	予算措置をすることにより、個々を生かす教育の推進に寄与した。	A:効率的である	消耗品や備品の購入を精査し、コストの削減に努めた。
	「情報の共有」の状況とその理由		「参加」の状況とその理由		「協働」の状況とその理由	
	B:実現に向けて取り組んでいる	確立していないため、積極的な公開には至っていない。	A:実現している	職場体験・市内見学等で市民の協力を得ている。	A:実現している	市民等から講師を招いて、授業を展開している。
	所管による評価とその理由、課題・問題点					
	A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)	いずれの取り組みも、生徒の「生きる力」を育む教育の推進という目的に資するものであり、一定の成果があったものと認められる。引き続き、創意工夫を生かした教育活動を実施する必要がある。				
	企画政策課での評価とその理由					
	A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)	生徒の個々を生かす「生きる力」を育む教育を推進することで、確かな学力の育成に一定の成果があると認められる。引き続き、より効果的に学習成果があげられるよう努めるものとする。				
政策調整会議での評価とその理由						
(この欄は斜線が入ります)						
庁議における方針						
(この欄は斜線が入ります)						
A C T (改善)	令和3年度活動指標(アウトプット)の設定		令和3年度成果指標(アウトカム)の設定			
	より効率的に学習成果があげられるよう、学校ごとに選んだ特定分野に対し、集中的な学習を行う。		全6中学校での事業実施。			
令和3年度における具体的な目標		令和3年度における事務事業スケジュール				
「総合的な学習の時間」がより効果的に運用されるよう、継続して予算支援を行う。		生徒が問題解決に主体的に取り組める態度と資質を育成する。				

令和2年度 事務事業整理シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
1	03	03	06	子どもの読書活動推進事業

予算科目				
款	項	目	事	事業名
9	02	02	8	子どもの読書活動推進事業

実施計画整理番号	
103030603	
総合戦略整理番号	22303

事務事業の概要	
事業の目的(【だれ・何】を【どのような状態】にするか) 学校図書館の整備・充実を図り、児童・生徒の読書活動を推進する。	活動内容(目的を達成するために何を行うか) ・専任の非常勤学校司書を配置する。 ・学校図書館の蔵書のデータベース化を図る。
令和2年度の具体的な目標 ・学校司書の配置校の拡充(全小学校へ基本週1日の配置) ・二宮小、緑ヶ丘小の統合に向けた蔵書のデータベース化	令和2年度スケジュール ・学校図書館や学校司書の活用について、巡回指導や合同研修会を開催する。 ・4月に学校図書館システムを契約、5月に二宮小、8月に緑ヶ丘小のデータベース化作業を行い、オリエンテーション後9月から緑ヶ丘小の運用を開始する。また、終業式後二宮小の蔵書を緑ヶ丘小に運搬配架して蔵書の最終整備を行う。

区分	単位	H29年度			H30年度			令和元年度			令和2年度		
		計画	予算	決算									
事業費	千円	2,798	2,844	2,828	2,798	6,280	5,978	4,442	4,899	3,946	4,240	7,343	6,811
財源内訳	国補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	県補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	市債	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	一般財源	千円	2,798	2,844	2,828	2,798	6,280	5,978	4,442	4,899	3,946	4,240	7,343

個別取組	内容	取組に係る費用(千円)			個別取組の達成状況及び今後の方向性
		計画	予算	決算	
①	学校司書の配置	3,780	5,171	4,789	5名の学校司書を全14小学校に配置し、読書活動や学習活動の支援を行った。今後、学校司書配置校の増設が望まれる。
②	データベース化の実施	460	1,052	908	通常の蔵書管理機能だけでなく、豊富な検索機能を有するシステムの導入校の増設が望まれる。
③	学校図書館の整備	0	1,120	1,114	本事業として1校8万円を図書購入費に充てた。蔵書を充実させ、魅力ある学校図書館を目指す。
④					
⑤					
⑥					
⑦					
⑧					
⑨					
⑩					
事業費計		4,240	7,343	6,811	

令和2年度の実施状況(事務事業の実施内容等を箇条書きで具体的に記入)

- ・5名の非常勤学校司書を全14小学校に配置した。
- ・コロナ禍のため学校司書情報交換会、学校図書館・市立図書館連絡会議、ボランティア研修会等を中止した。
- ・請求記号ラベルの貼り替えと配架修正を実施した。

PLAN(計画)

DO(実施)

令和2年度 事務事業評価シート

基本計画					予算科目					整理番号
章	節	項	細	実施計画事業名	款	項	目	事	事業名	103030603
1	03	03	06	子どもの読書活動推進事業	9	02	02	8	子どもの読書活動推進事業	

CHECK (評価)	令和2年度活動指標(アウトプット)の達成状況				令和2年度成果指標(アウトカム)の達成状況			
	<ul style="list-style-type: none"> ・非常勤の学校司書5名を全14小学校に週0.5日～2日ずつ配置した。 ・2小学校の請求記号ラベル貼り替えと配架修正を行った。 				<ul style="list-style-type: none"> ・学校司書により学校図書館の環境整備が図られただけでなく、読書指導や授業支援により、児童と教職員の学校図書館を利用する機会が増えた。 ・学校司書を配置するための環境が整った学校数 小学校14校 			
	妥当性の評価とその理由		有効性の評価とその理由		効率性の評価とその理由			
	A:妥当である	活字離れによる学力の低下が指摘されている中、読書活動の推進が必要であるため。	A:有効である	学習指導要領でも学校図書館の計画的な利用が位置付けられているため。	A:効率的である	業者委託による学校司書の配置やデータベース化よりも安価であるため。		
	「情報の共有」の状況とその理由		「参加」の状況とその理由		「協働」の状況とその理由			
	A:実現している	2018年8月に「第三次茂原市子ども読書活動推進計画」をHPで公表済み。	C:実現の余地がない	行政のみでしか実現できない事業。	C:実現の余地がない	行政のみでしか実現できない事業。		
	所管による評価とその理由、課題・問題点							
	A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)	学校司書の配置により、児童・教職員が学校図書館や資料を利活用する機会が増えた。また、蔵書のデータベース化により、学校図書館の適正な管理・運営が可能となった。 <課題>新学校図書館管理システム未導入校(既存のデータベース化校も含む。)の解消						
	企画政策課での評価とその理由							
	A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)	学校司書の配置と学校図書館管理システムの整備は、児童・生徒の読書活動の推進に寄与すると認められる。引き続き、学校図書館の適正な管理・運営を図るとともに、システム未導入校の解消に努めていただきたい。						
政策調整会議での評価とその理由								
庁議における方針								

ACT (改善)	令和3年度活動指標(アウトプット)の設定				令和3年度成果指標(アウトカム)の設定			
	<ul style="list-style-type: none"> ・学校司書の配置校の時数拡充。 ・学校図書館管理システム導入校の拡充(西小・本納小・中の島小) 				<ul style="list-style-type: none"> ・学校図書館管理システムの環境が整った学校数 			
令和3年度における具体的な目標				令和3年度における事務事業スケジュール				
<ul style="list-style-type: none"> ・学校司書の配置校の時数拡充(全小学校へ基本週1日の配置) ・西小、本納小、中の島小の蔵書のデータベース化 				<ul style="list-style-type: none"> ・学校図書館や学校司書の活用について、図書展示会や合同研修会を開催する。 ・4月に学校図書館システムを契約、7月に本納小、8月に西小・中の島小のデータベース化作業を行い、9月からの運用を開始する。 				

令和2年度 事務事業整理シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
1	03	04	01	(小)特別支援教育支援員活用事業

予算科目				
款	項	目	事	事業名
9	02	02	07	特別支援教育支援員活用事業

実施計画整理番号	
103040101	
総合戦略整理番号	0

事務事業の概要	
事業の目的(【だれ・何】を【どのような状態】にするか) 障害を持つ子どもが、学校において適正な教育や支援を受けられる様にする。	活動内容(目的を達成するために何を行うか) 特別支援教育支援員を配置する。
令和2年度の具体的な目標	令和2年度スケジュール
支援を要する児童のいる学校に対して支援員を適正配置し、障害に応じたサポートを行う。	当該児童が等しく義務教育を受けるための適切な支援を行う。

区分	単位	H29年度			H30年度			令和元年度			令和2年度		
		計画	予算	決算									
事業費	千円	20,506	20,497	20,446	20,506	21,578	21,189	26,128	26,299	24,028	26,128	28,297	25,895
財源内訳	国補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	県補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	市債	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	一般財源	千円	20,506	20,497	20,446	20,506	21,578	21,189	26,128	26,299	24,028	26,128	28,297

個別取組	内容	取組に係る費用(千円)			個別取組の達成状況及び今後の方向性
		計画	予算	決算	
①	特別支援教育支援員の配置	26,128	28,297	25,895	支援員を配置し、障害に応じたサポートを行った。今後も状況を把握しながら配置を検討していく。
②					
③					
④					
⑤					
⑥					
⑦					
⑧					
⑨					
⑩					
事業費計		26,128	28,297	25,895	

令和2年度の実施状況(事務事業の実施内容等を箇条書きで具体的に記入)

支援を要する児童のいる学校に支援員(18名)を配置し、生活上の介助や学習活動のサポートを行った。

令和2年度 事務事業評価シート

基本計画					予算科目					整理番号
章	節	項	細	実施計画事業名	款	項	目	事	事業名	103040101
1	03	04	01	(小)特別支援教育支援員活用事業	9	02	02	07	特別支援教育支援員活用事業	

CHECK (評価)	令和2年度活動指標(アウトプット)の達成状況					令和2年度成果指標(アウトカム)の達成状況					
	支援員を適正に配置した。(18名)					各校1名以上の支援員を配置した。(新治小を除く)					
	妥当性の評価とその理由			有効性の評価とその理由			効率性の評価とその理由				
	A:妥当である	学校教育の円滑な運営に不可欠であるため、市が主体となることが妥当。			A:有効である	支援員を配置することにより適切な支援ができるため有効。			C:あまり効率的ではない	支援員のニーズが高まっているため、コストの増加が見込まれる。	
	「情報の共有」の状況とその理由			「参加」の状況とその理由			「協働」の状況とその理由				
	A:実現している	教育委員会の点検・評価報告書がHPで公表されている。			C:実現の余地がない	行政のみでしか実現できない事業。			C:実現の余地がない	行政のみでしか実現できない事業。	
	所管による評価とその理由、課題・問題点										
	A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)	支援が必要な児童に対し、適切なサポートを行うことができた。									
	企画政策課での評価とその理由										
	A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)	本事業により、学校において適正な教育や支援を受けることができたと認められる。引き続き、適正に支援員を配置することで、学校教育の円滑な運営に努めていただきたい。									
政策調整会議での評価とその理由											
庁議における方針											
A C T (改善)	令和3年度活動指標(アウトプット)の設定					令和3年度成果指標(アウトカム)の設定					
	支援員の適正配置。(配置数)					各校1名以上の配置。(新治小を除く)					
令和3年度における具体的な目標					令和3年度における事務事業スケジュール						
支援を要する児童のいる学校に対して支援員を適正配置し、障害に応じたサポートを行う。					当該児童が等しく義務教育を受けるための適切な支援を行う。						

令和2年度 事務事業整理シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
1	03	04	01	(中)特別支援教育支援員活用事業

予算科目				
款	項	目	事	事業名
9	03	02	07	特別支援教育支援員活用事業

実施計画整理番号	
103040102	
総合戦略 整理番号	0

事務事業の概要	
PLAN (計画)	事業の目的(【だれ・何】を【どのような状態】にするか)
	活動内容(目的を達成するために何を行うか)
	令和2年度の具体的な目標
	令和2年度スケジュール
障害を持つ子どもが、学校において適正な教育や支援を受けられる様にする。	特別支援教育支援員を配置する。
支援を要する生徒のいる学校に対して支援員を適正配置し、障害に応じたサポートを行う。	当該生徒が等しく義務教育を受けるための適切な支援を行う。

区分	単位	H29年度			H30年度			令和元年度			令和2年度		
		計画	予算	決算									
事業費	千円	4,749	4,749	2,406	4,749	4,761	4,478	4,592	4,592	3,663	4,592	4,858	2,927
財源内訳	国補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	県補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	市債	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	一般財源	千円	4,749	4,749	2,406	4,749	4,761	4,478	4,592	4,592	3,663	4,592	4,858

個別取組	内容	取組に係る費用(千円)			個別取組の達成状況及び今後の方向性
		計画	予算	決算	
①	特別支援教育支援員の配置	4,592	4,858	2,927	支援員を配置し、障害に応じたサポートを行った。今後も状況を把握しながら配置を検討していく。
②					
③					
④					
⑤					
⑥					
⑦					
⑧					
⑨					
⑩					
事業費計		4,592	4,858	2,927	

令和2年度の実施状況(事務事業の実施内容等を箇条書きで具体的に記入)

支援を要する生徒のいる学校に支援員(2名)を配置し、生活上の介助や学習活動のサポートを行った。

DO
(実施)

令和2年度 事務事業評価シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
1	03	04	01	(中)特別支援教育支援員活用事業

予算科目				
款	項	目	事	事業名
9	03	02	07	特別支援教育支援員活用事業

整理番号
103040102

CHECK (評価)	令和2年度活動指標(アウトプット)の達成状況		令和2年度成果指標(アウトカム)の達成状況			
	支援員を適正に配置した。(2名)		2校に支援員を配置した。			
	妥当性の評価とその理由		有効性の評価とその理由		効率性の評価とその理由	
	A:妥当である	学校教育の円滑な運営に不可欠であるため、市が主体となることが妥当。	A:有効である	支援員を配置することにより適切な支援ができるため有効。	C:あまり効率的ではない	支援員のニーズが高まっているため、コストの増加が見込まれる。
	「情報の共有」の状況とその理由		「参加」の状況とその理由		「協働」の状況とその理由	
	A:実現している	教育委員会の点検・評価報告書がウェブページで公表されている。	C:実現の余地がない	行政のみでしか実現できない事業。	C:実現の余地がない	行政のみでしか実現できない事業。
	所管による評価とその理由、課題・問題点					
	A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)	支援が必要な生徒に対し、適切なサポートを行うことができた。				
	企画政策課での評価とその理由					
	A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)	本事業により、学校において適正な教育や支援を受けることができたと認められる。引き続き、支援員を適正に配置することで学校教育の円滑な運営に努めていただきたい。				
政策調整会議での評価とその理由						
庁議における方針						

ACT (改善)	令和3年度活動指標(アウトプット)の設定		令和3年度成果指標(アウトカム)の設定	
	支援員の適正配置。(配置数)		支援員の配置数。	
令和3年度における具体的な目標		令和3年度における事務事業スケジュール		
支援を要する生徒のいる学校に対して支援員を適正配置し、障害に応じたサポートを行う。		当該生徒が等しく義務教育を受けるための適切な支援を行う。		

令和2年度 事務事業整理シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
1	03	04	01	(幼)特別支援教育支援員活用事業

予算科目				
款	項	目	事	事業名
9	04	01	08	特別支援教育支援員活用事業

実施計画整理番号	
103040103	
総合戦略整理番号	0

事務事業の概要	
事業の目的(【だれ・何】を【どのような状態】にするか)	活動内容(目的を達成するために何を行うか)
障害を持つ子どもが、幼稚園において適正な教育や支援を受けられる様にする。	特別支援教育支援員を配置する。
令和2年度の具体的な目標	令和2年度スケジュール
支援を要する園児のいる幼稚園に対して支援員を適正配置し、障害に応じたサポートを行う。	当該園児が等しく幼児期教育を受けるための適切な支援を行う。

区分	単位	H29年度			H30年度			令和元年度			令和2年度		
		計画	予算	決算									
事業費	千円	5,275	5,714	5,682	5,275	6,486	6,033	5,080	5,080	4,969	5,080	9,333	8,484
財源内訳	国補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	県補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	市債	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	一般財源	千円	5,275	5,714	5,682	5,275	6,486	6,033	5,080	5,080	4,969	5,080	9,333

個別取組	内容	取組に係る費用(千円)			個別取組の達成状況及び今後の方向性
		計画	予算	決算	
①	特別支援教育支援員の配置	5,080	9,333	8,484	支援員を配置し、障害に応じたサポートを行った。今後も状況を把握しながら配置を検討していく。
②					
③					
④					
⑤					
⑥					
⑦					
⑧					
⑨					
⑩					
事業費計		5,080	9,333	8,484	

令和2年度の実施状況(事務事業の実施内容等を箇条書きで具体的に記入)

支援を要する園児のいる幼稚園に支援員(6名)を配置し、生活上の介助等のサポートを行った。

令和2年度 事務事業評価シート

基本計画					予算科目				整理番号	
章	節	項	細	実施計画事業名	款	項	目	事	事業名	103040103
1	03	04	01	(幼)特別支援教育支援員活用事業	9	04	01	08	特別支援教育支援員活用事業	

CHECK (評価)	令和2年度活動指標(アウトプット)の達成状況					令和2年度成果指標(アウトカム)の達成状況						
	支援員を適正に配置した。(6名)					3園に6名の支援員を配置した。						
	妥当性の評価とその理由			有効性の評価とその理由			効率性の評価とその理由					
	A:妥当である	幼児期の教育の円滑な運営に不可欠であるため、市が主体となることが妥当。			A:有効である	支援員を配置することにより適切な支援ができるため有効。			C:あまり効率的ではない	支援員のニーズが高まっているため、継続的にコストが発生。		
	「情報の共有」の状況とその理由			「参加」の状況とその理由			「協働」の状況とその理由					
	A:実現している	教育委員会の点検・評価報告書がHPで公表されている。			C:実現の余地がない	行政のみでしか実現できない事業。			C:実現の余地がない	行政のみでしか実現できない事業。		
	所管による評価とその理由、課題・問題点											
	A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)	支援が必要な園児に対し、適切なサポートを行うことができた。										
	企画政策課での評価とその理由											
	A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)	本事業により、幼稚園において適正な教育や支援を受けることができたと認められる。引き続き、支援員を配置することで幼稚園養育の円滑な運営に努めていただきたい。										
政策調整会議での評価とその理由												
庁議における方針												
ACT (改善)	令和3年度活動指標(アウトプット)の設定					令和3年度成果指標(アウトカム)の設定						
	支援員の適正配置。(配置数)					各園に1名以上の配置。						
令和3年度における具体的な目標					令和3年度における事務事業スケジュール							
支援を要する園児のいる幼稚園に対して支援員を適正配置し、障害に応じたサポートを行う。					当該園児が等しく幼児期の教育を受けるための適切な支援を行う。							

令和2年度 事務事業整理シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
1	03	05	01	(小)教職員研修支援事業

予算科目				
款	項	目	事	事業名
9	02	02	7	職員研修支援事業

実施計画整理番号	
103050101	
総合戦略整理番号	0

事務事業の概要	
事業の目的(【だれ・何】を【どのような状態】にするか) 教職員一人ひとりが自己の資質・力量を磨き上げ、確かな授業力を保てるようにする。	活動内容(目的を達成するために何を行うか) 各学校での校内研修会の実施及び自主グループの育成、県教委主催研修への参加の促進。
令和2年度の具体的な目標 ・全国学力状況調査結果分析委員会を3回開催する。 ・教育研究指定校への支援。(西小) ・校内研究会・研究協議会への支援。	令和2年度スケジュール ・校内研修、授業研究、合同研修会等を充実させる。 ・学力状況調査の結果分析を授業へ反映させる。

区分	単位	H29年度			H30年度			令和元年度			令和2年度			
		計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算	
事業費	千円	1,076	1,076	1,044	1,076	1,102	1,102	979	1,115	1,110	979	977	801	
財源内訳	国補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	県補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	市債	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	一般財源	千円	1,076	1,076	1,044	1,076	1,102	1,102	979	1,115	1,110	979	977	801

個別取組	内容	取組に係る費用(千円)			個別取組の達成状況及び今後の方向性
		計画	予算	決算	
①	校内研究会・研究協議会の支援	852	852	700	校内研究会の充実のための支援を行った。研究協議会は新型コロナウイルス感染症のため中止になった。教員の資質向上のため、継続が必要である。
②	研究指定校の支援	100	101	101	研究の充実のための支援を行った。研究は複数年にわたるため、継続が必要である。
③	全国学力状況調査の結果分析	27	24	0	新型コロナウイルス感染症のため全国学力状況調査が中止になったため、分析は行わなかった。
④					
⑤					
⑥					
⑦					
⑧					
⑨					
⑩					
事業費計		979	977	801	

令和2年度の実施状況(事務事業の実施内容等を箇条書きで具体的に記入)

- ・各学校で校内研修会は実施したが、研究協議会は新型コロナウイルス感染症のため中止になった。
- ・新型コロナウイルス感染症のため、全国学力状況調査が中止になったことにより結果分析は行わなかった。

令和2年度 事務事業評価シート

基本計画					予算科目					整理番号
章	節	項	細	実施計画事業名	款	項	目	事	事業名	103050101
1	03	05	01	(小)教職員研修支援事業	9	02	02	7	職員研修支援事業	

CHECK (評価)	令和2年度活動指標(アウトプット)の達成状況					令和2年度成果指標(アウトカム)の達成状況				
	<ul style="list-style-type: none"> ・校内研究会へ補助金を支給した。 ・教育研究指定校を定め、先進的な授業研究の支援をした。 					<ul style="list-style-type: none"> ・全小学校で、校内研修、授業研究等を行い、教職員が参加した。 				
	妥当性の評価とその理由		有効性の評価とその理由			効率性の評価とその理由				
	A:妥当である	教員の資質向上を図ることは、市の義務であり、妥当。			A:有効である	類似する取り組みはなく、意図の達成に貢献しているため有効。		A:効率的である	成果を維持するための必要な経費である。	
	「情報の共有」の状況とその理由		「参加」の状況とその理由			「協働」の状況とその理由				
	C:実現の余地がない	行政のみでしか実現できない事業。			C:実現の余地がない	行政のみでしか実現できない事業。		C:実現の余地がない	行政のみでしか実現できない事業。	
	所管による評価とその理由、課題・問題点									
	A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)	教員が日々の教育実践の他、研修等による自己研鑽により資質の向上を図ることができた。								
	企画政策課での評価とその理由									
	A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)	市内全小学校での実施により一定の成果があった事業と認められる。引き続き、研修等の機会を充実させることで、教員の資質向上を図るものとする。								
政策調整会議での評価とその理由										
庁議における方針										

ACT (改善)	令和3年度活動指標(アウトプット)の設定					令和3年度成果指標(アウトカム)の設定				
	<ul style="list-style-type: none"> ・校内研究会・研究協議会への補助金支給による支援。 ・教育研究指定校を定め、先進的な授業研究の支援。 					<ul style="list-style-type: none"> ・校内研修、授業研究等の開催数。 				
令和3年度における具体的な目標					令和3年度における事務事業スケジュール					
<ul style="list-style-type: none"> ・全国学力状況調査結果分析委員会を年3回開催する。 ・教育研究指定校への支援。(豊田小) ・校内研究会・研究協議会への支援。 					<ul style="list-style-type: none"> ・校内研修、授業研究、合同研修会等を充実させる。 ・学力状況調査の結果分析を授業へ反映させる。 					

令和2年度 事務事業整理シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
1	03	05	01	(中)教職員研修支援事業

予算科目				
款	項	目	事	事業名
9	03	02	08	職員研修支援事業

実施計画整理番号	
103050102	
総合戦略整理番号	0

事務事業の概要	
事業の目的(【だれ・何】を【どのような状態】にするか) 教職員一人ひとりが自己の資質・力量を磨き上げ、確かな授業力を保てるようにする。	活動内容(目的を達成するために何を行うか) 各学校での校内研修会の実施及び自主グループの育成、県教委主催研修への参加の促進。
令和2年度の具体的な目標 ・教育研究指定校への支援。(早野中) ・校内研究会・研究協議会への支援。 ・進路指導充実のための支援。	令和2年度スケジュール ・校内研修、授業研究、合同研修会等を充実させる。

区分	単位	H29年度			H30年度			令和元年度			令和2年度		
		計画	予算	決算									
事業費	千円	765	765	765	765	765	765	765	765	765	689	689	547
財源内訳	国補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	県補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	市債	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	一般財源	千円	765	765	765	765	765	765	765	765	765	689	689

個別取組	内容	取組に係る費用(千円)			個別取組の達成状況及び今後の方向性
		計画	予算	決算	
①	校内研究会・研究協議会の支援	493	493	360	校内研究会の充実のための支援を行った。研究協議会は新型コロナウイルス感染症のため中止になった。教員の資質向上のため、継続が必要である。
②	進路指導の支援	96	96	96	充実した進路指導の実施のための支援を行った。毎年行われるため、継続が必要である。
③	研究指定校の支援	100	100	91	研究の充実のための支援を行った。研究は複数年にわたるため、継続が必要である。
④					
⑤					
⑥					
⑦					
⑧					
⑨					
⑩					
事業費計		689	689	547	

令和2年度の実施状況(事務事業の実施内容等を箇条書きで具体的に記入)

- ・各学校で校内研修会は実施したが、研究協議会は新型コロナウイルス感染症のため中止になった。
- ・進路指導充実のための補助金を支給した。

令和2年度 事務事業評価シート

基本計画					予算科目					整理番号
章	節	項	細	実施計画事業名	款	項	目	事	事業名	103050102
1	03	05	01	(中)教職員研修支援事業	9	03	02	08	職員研修支援事業	

CHECK (評価)	令和2年度活動指標(アウトプット)の達成状況					令和2年度成果指標(アウトカム)の達成状況				
	<ul style="list-style-type: none"> ・校内研究会へ補助金を支給した。 ・教育研究指定校を定め、先進的な授業研究の支援をした。 ・進路指導充実のための支援をした。 					<ul style="list-style-type: none"> ・全中学校で、校内研修、授業研究等を行い、教職員が参加した。 ・進路指導の充実が図られた。 				
	妥当性の評価とその理由		有効性の評価とその理由			効率性の評価とその理由				
	A:妥当である	教員の資質向上を図ることは、市の義務であり、妥当。	A:有効である	類似する取り組みはなく、意図の達成に貢献しているため有効。	A:効率的である	成果を維持するための必要な経費である。				
	「情報の共有」の状況とその理由		「参加」の状況とその理由			「協働」の状況とその理由				
	C:実現の余地がない	行政のみでしか実現できない事業。	C:実現の余地がない	行政のみでしか実現できない事業。	C:実現の余地がない	行政のみでしか実現できない事業。				
	所管による評価とその理由、課題・問題点									
	A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)	教員が日々の教育実践の他、研修等による自己研鑽により資質の向上を図ることができた。								
	企画政策課での評価とその理由									
	A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)	市内全中学校での実施により一定の成果があった事業と認められる。引き続き、研修等の機会を充実させることで、教員の資質向上を図るものとする。								
政策調整会議での評価とその理由										
庁議における方針										
A C T (改善)	令和3年度活動指標(アウトプット)の設定					令和3年度成果指標(アウトカム)の設定				
	<ul style="list-style-type: none"> ・校内研究会・研究協議会への補助金支給による支援。 ・教育研究指定校を定め、先進的な授業研究の支援。 ・進路指導充実のための支援。 					<ul style="list-style-type: none"> ・校内研修、授業研究等の開催数。 ・進路指導の充実。 				
令和3年度における具体的な目標					令和3年度における事務事業スケジュール					
<ul style="list-style-type: none"> ・教育研究指定校への支援。(富士見中) ・校内研究会・研究協議会への支援。 ・進路指導充実のための支援。 					<ul style="list-style-type: none"> ・校内研修、授業研究、合同研修会等を充実させる。 					

令和2年度 事務事業整理シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
1	03	06	01	新共同調理場建設事業

予算科目				
款	項	目	事	事業名
9	06	05	01	共同調理場建設事業

実施計画整理番号	
103060101	
総合戦略整理番号	0

事務事業の概要	
事業の目的(【だれ・何】を【どのような状態】にするか) 市内小中学校を対象とした安全安心な学校給食を、学校衛生管理基準に適合した施設から提供するため、新センターを建設する。	活動内容(目的を達成するために何を行うか) 既存の共同調理場及び4つの単独調理場を統廃合し、新センターへの集約を図り、学校給食衛生管理基準及びHACCPに基づいた施設を建設する。
令和2年度の具体的な目標 ・新給食センターの適切な運営・維持管理	令和2年度スケジュール ・事業者の監理・指導を目的としたモニタリング支援業務委託を継続する。 ・事業者と市において、円滑な事業の遂行に努める。

区分	単位	H29年度			H30年度			令和元年度			令和2年度			
		計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算	
事業費	千円	17,235	18,662	18,294	10,333	7,205	6,991	714,717	730,266	728,309	431,249	116,547	116,547	
財源内訳	国補助	千円	0	0	0	0	0	0	123,647	123,647	455,602	0	0	0
	県補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	市債	千円	0	0	0	0	0	0	245,700	245,700	253,400	0	0	0
	その他	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	50,000	0	0
	一般財源	千円	17,235	18,662	18,294	10,333	7,205	6,991	345,370	360,919	19,307	381,249	116,547	116,547

個別取組	内容	取組に係る費用(千円)			個別取組の達成状況及び今後の方向性
		計画	予算	決算	
①	茂原市学校給食センター再整備等事業モニタリング支援業務委託	2,200	2,160	2,160	事業を達成し、年度末にて事業を終了した。
②	配膳室整備工事	0	0	0	
③	サービス購入料	429,049	114,387	114,387	当初の予定通りに執行し、今後も支払いを継続する。(H16年完了予定)
④					
⑤					
⑥					
⑦					
⑧					
⑨					
⑩					
事業費計		431,249	116,547	116,547	

令和2年度の実施状況(事務事業の実施内容等を箇条書きで具体的に記入)

- ・令和元年度建設工事完了にともない当初の目的は達成済み。
- ・令和2年度においても適切な運営・維持管理に努めた。

令和2年度 事務事業評価シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
1	03	06	01	新共同調理場建設事業

予算科目				
款	項	目	事	事業名
9	06	05	01	共同調理場建設事業

整理番号
103060101

令和2年度活動指標(アウトプット)の達成状況	令和2年度成果指標(アウトカム)の達成状況
—	—

妥当性の評価とその理由		有効性の評価とその理由		効率性の評価とその理由	
A:妥当である	食育の推進を図るとともに、栄養バランスのとれた安全・安心でおいしい学校給食を提供し、子ども達の健全な育成を図る事業である。	A:有効である	基本計画に基づきPFI手法を用いて整備された、学校給食衛生管理基準に適合する施設であり、児童生徒に、安全・安心でおいしい学校給食を提供している。	A:効率的である	基本計画に基づきPFI手法を用いて整備しており、従来方式に比べて市の財政負担額が削減が見込まれる。

「情報の共有」の状況とその理由		「参加」の状況とその理由		「協働」の状況とその理由	
A:実現している	市公式ウェブサイト・広報による公表済である。	A:実現している	地元自治会や関係者との協議は実施済である。	A:実現している	地元自治会や関係者との協議は実施済である。

所管による評価とその理由、課題・問題点	
A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)	茂原市学校給食基本計画に基づき、茂原市学校給食センター再整備等事業をPFI手法にて実施している。令和元年9月2日から安全・安心で温かく美味しい給食を提供することが出来ている。今後はPFI事業の期間である令和15年8月まで適切な運営・維持管理に努める。

企画政策課での評価とその理由	
A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)	当初の目的は達成したと認められる。引き続き、新給食センターの適切な運営・維持管理に努めていただきたい。

政策調整会議での評価とその理由	

庁議における方針	

令和3年度活動指標(アウトプット)の設定	令和3年度成果指標(アウトカム)の設定
—	—

令和3年度における具体的な目標	令和3年度における事務事業スケジュール
—	—

CHECK (評価)

ACT (改善)

令和2年度 事務事業整理シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
1	04	02	01	公民館学級運営費

予算科目				
款	項	目	事	事業名
9	05	02	07	中央公民館学級運営費 本納公民館学級運営費 鶴枝公民館学級運営費

実施計画整理番号	
104020101	
総合戦略 整理番号	0

PLAN (計画)	事務事業の概要	
	事業の目的(【だれ・何】を【どのような状態】にするか)	活動内容(目的を達成するために何を行うか)
	市民を対象(市内在勤を含む)に、各種教室を開催し、市民の教養の向上、健康の増進、情操の純化を図り、生活文化の振興、社会福祉の増進に寄与する。	各公民館(中央、本納、鶴枝)では主催教室として女性、成人、少年を対象に23教室を平日、夜間及び土曜に開催する。 (講師謝礼:市内2,500円/時、郡内3,000円/時、郡外3,800円/時)
	令和2年度の具体的な目標	令和2年度スケジュール
・安全に有意義な主催教室が開催できるように検討する。		
・令和2年4月:広報・市公式ウェブサイト・ポスター等で受講生募集 ・令和2年9月:コロナウイルス感染防止の為、9月より講座を開始予定。		

区分	単位	H29年度			H30年度			令和元年度			令和2年度		
		計画	予算	決算									
事業費	千円	1,167	1,094	1,018	1,190	1,047	983	1,075	1,075	850	1,047	1,009	554
財源内訳	国補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	県補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	市債	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	一般財源	千円	1,167	1,094	1,018	1,190	1,047	983	1,075	1,075	850	1,047	1,009

個別取組	内容	取組に係る費用(千円)			個別取組の達成状況及び今後の方向性
		計画	予算	決算	
①	中央公民館主催7教室の実施	425	418	150	開催数:21回・延べ参加人数:209人・出席率:90.48% 実施した教室は2教室である。
②	本納公民館主催教室6教室の実施	262	235	158	開催数:24回・延べ参加人数:260人・出席率:76.92% 実施した教室は4教室である。
③	鶴枝公民館主催教室6教室の実施	360	356	246	開催数:42回・延べ参加人数:218人・出席率:73.15% 実施した教室は8教室である。
④					
⑤					
⑥					
⑦					
⑧					
⑨					
⑩					
事業費計		1,047	1,009	554	

令和2年度の実施状況(事務事業の実施内容等を箇条書きで具体的に記入)

- 中央公民館 開催数:21回・延べ参加人数:209人・出席率:90.48% 実施した教室は2教室である。
- 本納公民館 開催数:24回・延べ参加人数:260人・出席率:76.92% 実施した教室は4教室である。
- 鶴枝公民館 開催数:42回・延べ参加人数:218人・出席率:73.15% 実施した教室は8教室である。

DO
(実施)

令和2年度 事務事業評価シート

基本計画					予算科目				整理番号	
章	節	項	細	実施計画事業名	款	項	目	事	事業名	104020101
1	04	02	01	公民館学級運営費	9	05	02	07	中央公民館学級運営費 本納公民館学級運営費 鶴枝公民館学級運営費	

CHECK (評価)	令和2年度活動指標(アウトプット)の達成状況				令和2年度成果指標(アウトカム)の達成状況			
	<ul style="list-style-type: none"> ・主催教室開催数 87回 ・教室等の情報発信数 4回 ・公民館運営審議会の開催数 2回 				<ul style="list-style-type: none"> ・主催教室参加者数(累計) 687人 (中央 2教室21回延べ人数:209人 本納 4教室24回延べ人数260人 鶴枝 6教室42回延べ人数218人) 			
	妥当性の評価とその理由		有効性の評価とその理由		効率性の評価とその理由			
	B:ほぼ妥当である	地域における生涯学習の拠点施設として、各種の講座や事業を実施し、学びや交流の機会を提供した。	B:やや有効である	令和2年度は、中央公民館については青少年の教室が新型コロナウイルスによって、開催できず、次年度に新しい企画として開催したい。	B:やや効率的である	市民のニーズと社会的課題を考慮した多様なジャンルの主催教室を開催し、多くの市民に学習機会を提供した。		
	「情報の共有」の状況とその理由		「参加」の状況とその理由		「協働」の状況とその理由			
	B:実現に向けて取り組んでいる	市公式ウェブサイトや広報等での周知、各公民館で情報を提示するなど情報共有しているが、他の周知方法も検討する。	B:実現に向けて取り組んでいる	高齢者が多く、参加者数が減少しているが、青少年を含む新規受講者の獲得に向けて検討する。	B:実現に向けて取り組んでいる	地域住民の学習ニーズを積極的に企画、運営に反映させるため、公民館運営審議会を開催している。		
	所管による評価とその理由、課題・問題点							
	B:ある程度の成果を挙げた(達成度4割~7割)	新型コロナウイルス感染防止など問題が生じるが、なるべく新規主催教室の開催を実現させ、主催教室の内容、周知方法の検討等、新規受講者の獲得に努める必要がある。						
	企画政策課での評価とその理由							
	B:ある程度の成果を挙げた(達成度4割~7割)	各主催教室の実施により、市民等の教養の向上、健康の増進等に一定の成果があったと認められる。今後はウィズコロナに対応した実施方法も検討するなど、市民の生活文化の振興、社会福祉の増進をより一層図れるように努めていただきたい。						
政策調整会議での評価とその理由								
庁議における方針								

ACT (改善)	令和3年度活動指標(アウトプット)の設定				令和3年度成果指標(アウトカム)の設定			
	<ul style="list-style-type: none"> ・主催教室開催数 ・教室等の情報発信件数 ・公民館運営審議会の開催回数 				<ul style="list-style-type: none"> ・主催教室参加者数(累計) ・自主グループ数 			
令和3年度における具体的な目標				令和3年度における事務事業スケジュール				
<ul style="list-style-type: none"> ・安全に有意義な主催教室が開催できるように検討する。 				<ul style="list-style-type: none"> ・令和3年4月:広報・市公式ウェブサイト・ポスター等で受講生募集 				

令和2年度 事務事業整理シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
1	04	02	01	文化会館主催事業

予算科目				
款	項	目	事	事業名
2	01	19	03	文化会館主催事業

実施計画整理番号	
104020102	
総合戦略整理番号	0

事務事業の概要	
事業の目的(【だれ・何】を【どのような状態】にするか) 市民の文化活動を援助し、教養の向上を図るための講座や事業を充実させる。また、外房地区に映画館のない現状のなか、市民の身近な施設で上質な映画を定期的に提供することにより、文化活動の拠点となるようにする。	活動内容(目的を達成するために何を行うか) ・多様なニーズにあった主催教室を実施する。 ・主催事業として、上質な映画や当地域の文化歴史を伝える映画を、市民の協力を得て有料・無料で定期的に上映する。
令和2年度の具体的な目標 ・主催教室 新規教室1教室以上、参加者の満足度向上。 ・映画会 来場者数の増加、優秀映画鑑賞会の目標来場者数450人以上。	令和2年度スケジュール ・主催教室 公式ワナゲ教室(8回)太巻き寿司教室(5回)男の料理教室(5回)うたごえ教室(10回)大正琴教室(5回)クラフトバンド教室(6回)ノートパソコン教室(5回)子どもアレンジフラワー教室(2回)子どもクラフトバンド教室(1回) ・映画会 「大画面でみる映画会」(年3回延べ6回)、「名作映画を大画面で! (優秀映画鑑賞推進事業)」(年2日間延べ4回)

区分	単位	H29年度			H30年度			令和元年度			令和2年度			
		計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算	
事業費	千円	1,817	1,558	1,479	692	745	637	738	738	712	738	738	227	
財源内訳	国補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	県補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	市債	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	その他	千円	220	220	200	220	215	200	215	215	181	215	215	0
	一般財源	千円	1,597	1,338	1,279	472	530	437	523	523	531	523	523	227

個別取組	内容	取組に係る費用(千円)			個別取組の達成状況及び今後の方向性
		計画	予算	決算	
①	主催事業の充実	409	397	227	主催教室を実施。今後も継続。 (主催教室の一部は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止)
②	映画上映会の実施	329	341	0	映画会は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止。
③					
④					
⑤					
⑥					
⑦					
⑧					
⑨					
⑩					
事業費計		738	738	227	

令和2年度の実施状況(事務事業の実施内容等を箇条書きで具体的に記入)

- ・主催教室は6教室延べ25回実施、参加者188名。
- ・映画会は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止。

PLAN(計画)

DO(実施)

令和2年度 事務事業評価シート

基本計画					予算科目				整理番号	
章	節	項	細	実施計画事業名	款	項	目	事	事業名	104020102
1	04	02	01	文化会館主催事業	2	01	19	03	文化会館主催事業	

CHECK (評価)	令和2年度活動指標(アウトプット)の達成状況				令和2年度成果指標(アウトカム)の達成状況			
	①主催教室は6教室(うち新規3教室)延べ25回実施し延べ参加者数188名、概ね達成できた。 ②映画会は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止。				主催教室参加者へのアンケートで「大変満足・満足」と答えた割合94.29%			
	妥当性の評価とその理由		有効性の評価とその理由		効率性の評価とその理由			
	A:妥当である	低料金で様々な活動の機会を提供する主催教室は、自治体を実施すべき文化事業である。	A:有効である	主催教室への参加をきっかけに自己啓発のため自主活動や民間の教室に参加する方もおり、文化・教養の向上のために有効な事業である。	A:効率的である	必要最低限の費用で、質の高い事業を実施できている。		
	「情報の共有」の状況とその理由		「参加」の状況とその理由		「協働」の状況とその理由			
	A:実現している	広報やポスターなど広く情報が届くようにしている。	A:実現している	主催事業を増やすなど、参加者層の拡大を図っている。	その他	市民協働で実施している有料映画会は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止。		
	所管による評価とその理由、課題・問題点							
	B:ある程度の成果を挙げた(達成度4割~7割)	①主催教室は、公式ワナゲ教室、ノートパソコン教室、子どもアレンジフラワー教室を実施した。また、新規にクラフトバンド教室や大正琴教室、子どもクラフトバンド教室を実施し、各教室とも大変好評を得られたことから充実した事業となった。 ②映画会は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止とした。今後の映画会の内容について検討していくこととした。						
	企画政策課での評価とその理由							
	B:ある程度の成果を挙げた(達成度4割~7割)	新型コロナウイルス感染症の影響はあるものの、主催教室の参加者アンケートにおいて高評価を得ていることから、一定の成果を挙げていると認められる。今後は、ウィズコロナに対応した事業の開催方法を検討するとともに、市民の文化活動に対するニーズを把握し、文化活動の援助、教養の向上に資するよう努めていただきたい。						
政策調整会議での評価とその理由								
庁議における方針								

ACT (改善)	令和3年度活動指標(アウトプット)の設定				令和3年度成果指標(アウトカム)の設定			
	・主催教室数及び延べ参加者数				・主催教室参加者へのアンケートで「大変満足・満足」と答えた割合			
令和3年度における具体的な目標				令和3年度における事務事業スケジュール				
・主催教室 新規教室1教室以上、参加者の満足度向上。 ・映画会 来場者数の増加。				・主催教室 公式ワナゲ教室(10回)、ノートパソコン教室(5回)、子どもアレンジフラワー教室(2回)、クラフトバンド教室(中級者)(5回)、クラフトバンド教室(初級者)(3回)、大正琴教室(5回)、子どもクラフトバンド教室(1回) ・映画会 「大画面でみる映画会」(年1回)				

令和2年度 事務事業整理シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
1	04	02	02	社会教育団体支援事業

予算科目				
款	項	目	事	事業名
9	05	01	07	社会教育関係団体助成事業

実施計画整理番号	
104020201	
総合戦略整理番号	0

事務事業の概要	
PLAN (計画)	事業の目的(【だれ・何】を【どのような状態】にするか)
	活動内容(目的を達成するために何を行うか)
	令和2年度の具体的な目標
	令和2年度スケジュール

社会教育関係団体の活動を支援し、活動を活性化させる。

各団体に補助金を交付するとともに、リーダー研修等を開催する。

令和2年度の具体的な目標

- ・運営費の補助による団体の活動支援。
- ・役員の研修会や講習会への積極的な参加による人材育成。
- ・団体を運営する当事者が抱える問題解決のサポート。

令和2年度スケジュール

- ・各団体への補助金の交付
- ①PTA連合会(51千円)
- ②ボーイスカウト茂原第2団(24千円)
- ③子ども会育成連合会(800千円)
- ・役員の研修会や講習会への積極的な参加
- ・団体を運営する当事者同士の意見交換会等の開催

区分	単位	H29年度			H30年度			令和元年度			令和2年度		
		計画	予算	決算									
事業費	千円	888	888	863	888	888	863	679	679	665	679	899	139
財源内訳	国補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	県補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	市債	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	一般財源	千円	888	888	863	888	888	863	679	679	665	679	899

個別取組	内容	取組に係る費用(千円)			個別取組の達成状況及び今後の方向性
		計画	予算	決算	
①	PTA連合会の活動支援	56	56	56	茂原市PTA連合会に補助金を交付し、活動を支援した。今後も引き続き支援を行う。
②	ボーイスカウト活動支援	24	24	24	ボーイスカウト茂原第2団に補助金を交付し、活動を支援した。今後も引き続き支援を行う。
③	子ども会育成支援	599	819	59	コロナ禍で茂原市子ども会育成連合会のほとんどの事業が中止となったため、補助金額が大幅に減額となった。今後も引き続き支援を行う。
④					
⑤					
⑥					
⑦					
⑧					
⑨					
⑩					
事業費計		679	899	139	

令和2年度の実施状況(事務事業の実施内容等を箇条書きで具体的に記入)	
・各団体に補助金を交付し、活動を支援した。 ①PTA連合会 51千円(講演会、研修等) ②ボーイスカウト茂原第2団 24千円(ハイキング、奉仕活動等) ③子ども会育成連合会 50千円(コロナ禍のため事業実施できず)	

DO (実施)

令和2年度 事務事業評価シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
1	04	02	02	社会教育団体支援事業

予算科目				
款	項	目	事	事業名
9	05	01	07	社会教育関係団体助成事業

整理番号
104020201

CHECK (評価)	令和2年度活動指標(アウトプット)の達成状況		令和2年度成果指標(アウトカム)の達成状況			
	・補助金の交付件数 3件		・意見交換会等の参加人数 0人(コロナ禍により実施せず) ・子ども会育成連合会の活動回数 4回(役員会のみ。コロナ禍により事業は実施せず)			
	妥当性の評価とその理由		有効性の評価とその理由		効率性の評価とその理由	
	A:妥当である	青少年教育の充実を図るために各団体に補助金を交付し、活動を支援することは妥当である。	A:有効である	青少年教育の充実等、各団体の目的達成のために補助金が有効活用されている。	A:効率的である	団体の運営資金の一部を補助しており、効率的である。
	「情報の共有」の状況とその理由		「参加」の状況とその理由		「協働」の状況とその理由	
	A:実現している	補助金交付要綱をウェブページで公表している。	A:実現している	補助金交付要望書により要望を取り入れている。	A:実現している	団体との情報共有や適切な役割分担を行っている。
	所管による評価とその理由、課題・問題点					
	B:ある程度の成果を挙げた(達成度4割~7割)		団体運営費の補助による活動支援を行ったが、コロナ禍によりほとんどの事業を中止した茂原市子ども会育成連合会については補助金額が大幅に減少となった。今後の課題として、もともと減少傾向にあった単位子ども会数がコロナ禍をきっかけに更に落ち込む恐れがあることから、市子連と共に対策を講じる必要がある。			
企画政策課での評価とその理由						
B:ある程度の成果を挙げた(達成度4割~7割)		社会教育関係団体の活動活性化に一定の成果があったと認められる。今後とも各団体の人材育成及び組織強化のための支援を実施するとともに、各団体の意見・要望を共有する機会及びウィズコロナに対応した活動手法を検討いただきたい。				
政策調整会議での評価とその理由						
庁議における方針						

ACT (改善)	令和3年度活動指標(アウトプット)の設定		令和3年度成果指標(アウトカム)の設定	
	・活動を支援した団体数 ・子ども会育成連合会行事の実施回数		・子ども会育成連合会行事への参加者数 ・研修会等の参加者数	
令和3年度における具体的な目標		令和3年度における事務事業スケジュール		
・運営費の補助による団体の活動支援。 ・役員の研修会や講習会への積極的な参加による人材育成。 ・団体を運営する当事者が抱える問題解決のサポート。		・各団体への補助金の交付 ①PTA連合会(51千円) ②ボーイスカウト茂原第2団(10千円) ③子ども会育成連合会(800千円) ・役員の研修会や講習会への積極的な参加 ・団体を運営する当事者同士の意見交換会等の開催		

令和2年度 事務事業整理シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
1	05	02	01	スポーツ教室事業

予算科目				
款	項	目	事	事業名
9	06	01	02	スポーツ教室事業

実施計画整理番号	
105020101	
総合戦略整理番号	32202

事務事業の概要	
事業の目的(【だれ・何】を【どのような状態】にするか) 市民の健康づくり・体力づくりを推進し、健康で明るい活力に満ちた生活の実現を目指す。	活動内容(目的を達成するために何を行うか) 基本的な運動技術の習得を目標に各種スポーツ教室を開催する。
令和2年度の具体的な目標 市民体育館大規模改修工事による休館に伴い、会場を代替しての実施が可能なパラスポーツ教室のみを実施する。障害者スポーツの推進に努めるため、障害者スポーツの魅力を伝え、健常者と共にスポーツを楽しむことができる機会を構築する。	令和2年度スケジュール 大規模改修工事により総合市民センターに会場を代替しての実施 パラスポーツ教室 4～3月 計10回

区分	単位	H29年度			H30年度			令和元年度			令和2年度		
		計画	予算	決算									
事業費	千円	945	945	881	945	964	852	874	874	749	452	120	19
財源内訳	国補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	県補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	市債	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	一般財源	千円	945	945	881	945	964	852	874	874	749	452	120

個別取組	内容	取組に係る費用(千円)			個別取組の達成状況及び今後の方向性
		計画	予算	決算	
①	各種スポーツ教室の開催	452	120	19	市民体育館大規模改修工事及び新型コロナウイルス感染症拡大により、教室は実施できなかった。今後は、引き続き、若い世代でも参加できる教室を実施するため、時間帯や世代に見合った新たな教室の内容を検討する。
②					
③					
④					
⑤					
⑥					
⑦					
⑧					
⑨					
⑩					
事業費計		452	120	19	

令和2年度の実施状況(事務事業の実施内容等を箇条書きで具体的に記入)
 ・実施した教室なし(理由:市民体育館大規模改修工事及び新型コロナウイルス感染症拡大により)

PLAN(計画)

DO(実施)

令和2年度 事務事業評価シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
1	05	02	01	スポーツ教室事業

予算科目				
款	項	目	事	事業名
9	06	01	02	スポーツ教室事業

整理番号
105020101

令和2年度活動指標(アウトプット)の達成状況 市民体育館大規模改修工事及び新型コロナウイルス感染症拡大により、実施した教室はなし。	令和2年度成果指標(アウトカム)の達成状況 参加者なし。
--------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------

妥当性の評価とその理由		有効性の評価とその理由		効率性の評価とその理由	
A:妥当である	市民がスポーツを行うきっかけづくりとして、自治体が事業を実施することは妥当である。	A:有効である	R2は実施した教室はないが、例年定員を超える応募がある教室もあり、教室参加をきっかけにスポーツを始める市民もいるため有効である。	A:効率的である	R2は実施した教室はないが、例年受益者負担の立場から傷害保険は受益者が負担しているため効率的である。

「情報の共有」の状況とその理由		「参加」の状況とその理由		「協働」の状況とその理由	
その他	R2は実施した教室はないが、例年広報、市公式ウェブサイトにて市民に教室開催の情報を提供している。	その他	R2は実施した教室はないが、例年障がい者や、幅広い年齢層に対応するための教室を開催している。	その他	R2は実施した教室はないが、例年教室参加者から要望等の聞き取りを行っている。

所管による評価とその理由、課題・問題点	
B:ある程度の成果を挙げた(達成度4割~7割)	R2年度は市民体育館大規模改修工事により市民体育館での教室開催はできないため、会場を代替して実施可能なパラスポーツ教室のみの実施予定であったが、新型コロナウイルス感染症の拡大により、予定していた教室は実施できなかった。今後は、新型コロナウイルス感染症の感染状況により、教室実施に向けて対応策を考えていくとともに、新たな教室の企画も考える必要がある。

企画政策課での評価とその理由	
C:事業の対象や手法の見直しが必要(達成度3割以下)	市民体育館大規模改修工事や新型コロナウイルス感染症の影響により事業実施が困難であったが、例年の成果により本事業は市民の健康づくり・体力づくりの推進に資する事業と認められる。今後は、ウィズコロナに対応する開催方法の検討・実施及び障害者スポーツの魅力発信などに努めるとともに、参加者のニーズ調査等も検討いただきたい。

政策調整会議での評価とその理由	

庁議における方針	

令和3年度活動指標(アウトプット)の設定 ・各種教室の開催数	令和3年度成果指標(アウトカム)の設定 ・各種教室の参加者数
---------------------------------------	---------------------------------------

令和3年度における具体的な目標 スポーツを行うきっかけづくりのため、初心者を中心に各種教室に参加させる。また、障がい者スポーツの推進に努めるため、高齢者の健康保持にも効果的であること等、障がい者スポーツの魅力伝えていき、健常者とともにスポーツを楽しむことができる機会を構築する。	令和3年度における事務事業スケジュール (新型コロナウイルス感染症の感染状況により開催可否判断) ヨーガ教室 計10回 太極拳教室 計10回 美と健康づくり体操教室 計10回 パラスポーツ教室 計10回 エアロビクスダンス教室 計10回 ジュニアスポーツ教室 計1回 健康トレーニング教室 計5回
----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

CHECK (評価)

ACT (改善)

令和2年度 事務事業整理シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
1	05	02	01	スポーツ振興事業

予算科目				
款	項	目	事	事業名
9	06	01	03	スポーツ振興事業

実施計画整理番号	
105020102	
総合戦略 整理番号	32203 32204

事務事業の概要	
事業の目的(【だれ・何】を【どのような状態】にするか)	活動内容(目的を達成するために何を行うか)
市民に、スポーツに触れ合う機会を数多く提供し、市民の健康増進を図り、スポーツを通じて、健康で活気あるまちづくりを推進する。また茂原市体育協会と茂原市スポーツ少年団の組織強化を図り、競技スポーツと青少年の健全育成を推進する。	タッチバレーボール大会・ファミリースポーツまつり・スポレク祭等を開催する。体育協会と共催で市民体育祭を開催する。体育協会とスポーツ少年団に補助金を交付し支援する。総合的な、スポーツの振興に関する事項を審議するため、スポーツ推進審議会を開催する。総合型地域スポーツクラブ検討委員会を設置する。大相撲茂原場所の開催をする。
令和2年度の具体的な目標	令和2年度スケジュール
スポーツ推進計画に掲げる「市民ひとり1スポーツ」の実現に向けて、より多くの市民がスポーツを行う環境をつくるため、小学校区を基準とした地区スポーツ活動事業を行う。緑ヶ丘スポーツクラブに次ぐ、総合型地域スポーツクラブ設立に向けて、「地区スポーツ活動事業」を行うことにより、各地区の情報を得て、設立に必要なとされる人材の育成を図っていく。	協働するスポーツ推進委員等、他団体との連携をとるため、定期的な意見交換の場を設け、お互いの役割を明確にして、取り組んでいく。また、今後のスポーツ事業に必要な人材を発掘するため、スポーツボランティア制度を設立する。

区分	単位	H29年度			H30年度			令和元年度			令和2年度		
		計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算
事業費	千円	10,277	10,934	10,364	7,927	8,731	7,731	7,694	7,880	7,091	6,652	7,186	4,411
財源内訳	国補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	709	709
	県補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	市債	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	千円	0	0	0	0	0	0	120	120	0	0	0
	一般財源	千円	10,277	10,934	10,364	7,927	8,731	7,731	7,574	7,760	7,091	6,652	6,477

個別取組	内容	取組に係る費用(千円)			個別取組の達成状況及び今後の方向性
		計画	予算	決算	
①	体育協会と共催し市民体育祭の開催	1,054	1,168	614	新型コロナウイルス感染症の感染拡大により市民体育祭は実施なし。改善継続。
②	各種スポーツイベントの開催	1,487	1,710	1,000	新型コロナウイルス感染症の感染拡大により大人のスポーツテスト、レッツエンジョイウォーキングのみ開催。できるものを見極めながら今後も継続。
③	体育協会活動とスポーツ少年団活動の支援	2,257	2,257	2,257	体育協会とスポーツ少年団への活動補助金を交付し、各組織の自主的活動への支援をした。今後も継続。
④	スポーツ推進審議会の開催	174	174	167	茂原市のスポーツ推進の現状を審議し、今後の具体的な取り組み事項について審議した。今後も継続。
⑤	トップアスリートによる講演会	0	200	6	新型コロナウイルス感染症の感染拡大により講演会の実施はなし。改善継続。
⑥	市民マラソン大会の検討	0	0	0	
⑦	スポーツ掲示板啓発	10	10	7	ウェブページやfacebookでのスポーツ情報発信に併せて、市役所ロビーにて来庁者への情報発信を実施した。今後も継続。
⑧	鍛山部屋ふれあい相撲・(仮称)大相撲茂原場所の開催	950	947	0	
⑨	スポーツ推進委員活動	720	720	360	新型コロナウイルス感染症の感染拡大によりレッツエンジョイウォーキングのみの開催ではあったが、スポーツ推進事業の実働を行った。できるものを見極めながら今後も継続。
⑩					
事業費計		6,652	7,186	4,411	

令和2年度の実施状況(事務事業の実施内容等を簡条書きで具体的に記入)

- ①コロナ禍で実施可能なスポーツ教室等の検討、及び今後のスポーツ推進委員活動のスポーツの普及の協議のため、スポーツ推進委員会を3回開催した。
- ②第2次茂原市スポーツ推進計画の策定等、スポーツの推進に関する事項について調査・審議するため、スポーツ推進審議会を3回開催した。
- ③スポーツイベントの開催。大人のスポーツテスト・レッツエンジョイウォーキング

令和2年度 事務事業評価シート

基本計画					予算科目				整理番号	
章	節	項	細	実施計画事業名	款	項	目	事	事業名	105020102
1	05	02	01	スポーツ振興事業	9	06	01	03	スポーツ振興事業	

CHECK (評価)	令和2年度活動指標(アウトプット)の達成状況				令和2年度成果指標(アウトカム)の達成状況			
	新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、大人の体カテストとレッツエンジョイウォーキングのみの開催。				大人の体カテストに約30人、レッツエンジョイウォーキングに約20人、計約50人が参加した。			
	妥当性の評価とその理由		有効性の評価とその理由		効率性の評価とその理由			
	A:妥当である	スポーツの推進には、単に楽しむ機会の提供だけではなく、スポーツを通じて市民の健康増進に繋がるのが自治体の役割として必要である。	A:有効である	市民の健康増進のきっかけづくりとして、各種スポーツ事業を実施することは有効である。	A:効率的である	各種事業必要最小限の費用により事業は実施されている。		
	「情報の共有」の状況とその理由		「参加」の状況とその理由		「協働」の状況とその理由			
	A:実現している	広報、自治会回覧、小中学校配布、市公式ウェブサイトでの情報発信に加え、フェイスブックを活用してタイムリーな情報発信に取り組んでいる。	その他	R2は実施したイベントは少ないが、例年各種事業において老若男女が参加できる状況を提供している。	その他	R2は実施したイベントは少ないが、例年各種事業の運営においては、専門知識を持った団体と協働し、スポーツ事業を実施している。		
	所管による評価とその理由、課題・問題点							
B:ある程度の成果を挙げた(達成度4割~7割)	新型コロナウイルス感染拡大防止のため、予定していた事業を中止及び一部縮小したが、エンジョイウォーキングの開催及びウォーキングマップの配付により、個々にできるスポーツの普及に力を入れ、スポーツ環境の充実及び市民の健康増進と体力向上に努めた。今後も、新型コロナウイルスの感染状況をみながら実施できる事業及び方法等を検討していく。							
企画政策課での評価とその理由								
B:ある程度の成果を挙げた(達成度4割~7割)	新型コロナウイルス感染症の影響はあるものの、市民にスポーツに触れ合う機会の提供に一定の成果があったと認められる。今後は、ウィズコロナに対応した開催方法を検討・実施することで、スポーツ環境の充実や市民の健康増進に努めていただきたい。							
政策調整会議での評価とその理由								
(Blank area for policy adjustment meeting evaluation)								
庁議における方針								
(Blank area for hall meeting policy)								

ACT (改善)	令和3年度活動指標(アウトプット)の設定				令和3年度成果指標(アウトカム)の設定			
	スポーツ推進に係る事業の開催数				事業への参加人数			
令和3年度における具体的な目標				令和3年度における事務事業スケジュール				
スポーツ推進計画に掲げる「市民ひとり1スポーツ」の実現に向けて、より多くの市民がスポーツを行う環境をつくる。				協働するスポーツ推進委員等、他団体との連携をとるため、定期的な意見交換の場を設け、お互いの役割を明確にして取り組んでいく。(新型コロナウイルス感染症の感染状況により実施可否判断) スポーツ推進委員会、スポーツ推進審議会、大人のスポーツテスト等				

令和2年度 事務事業整理シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
1	06	01	01	新市民会館建設事業

予算科目				
款	項	目	事	事業名
2	01	09	07	新市民会館建設検討事業

実施計画整理番号	
106010101	
総合戦略整理番号	0

事務事業の概要	
事業の目的(【だれ・何】を【どのような状態】にするか) 昭和43年に開館した市民会館は、施設や設備の老朽化が進んでおり、市民の多様化したニーズへの対応が困難となっている。このため、茂原市総合計画に基づき、新文化会館(複合施設)建設の検討を行う。	活動内容(目的を達成するために何を行うか) 建設の必要性を含めて、基本的な機能、役割等について検討し、市民や専門家等の幅広い意見を集約の上、基本構想及び民間活力の導入可能性調査及びその後の計画を策定する必要がある。
令和2年度の具体的な目標 ・事業の方向性 ・次期総合計画における建設の位置づけ	令和2年度スケジュール ・課内検討 ・庁内検討委員会

区分	単位	H29年度			H30年度			令和元年度			令和2年度		
		計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算
事業費	千円	10,228	10,228	10,184	11,491	12,491	12,387	66	66	5	6,545	374	22
財源内訳	国補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	県補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	市債	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	一般財源	千円	10,228	10,228	10,184	11,491	12,491	12,387	66	66	5	6,545	374

個別取組	内容	取組に係る費用(千円)			個別取組の達成状況及び今後の方向性
		計画	予算	決算	
①	茂原市PPP/PFI導入基本指針に基づく検討	0	67	22	災害で建設候補地が浸水したことにより、改めて検討する必要が生じた。新型コロナウイルス感染症の拡大もあり、計画の見直しはついていない。
②	PFI導入可能性調査	6,545	0	0	令和元年度に調査を行い、従来方式での建築と決定した。
③	委員報償費	0	307	0	人が集まるサードプレイスとしての可能性を探るため、コワーキングスペースやシェアオフィスの視察を行った。
④					
⑤					
⑥					
⑦					
⑧					
⑨					
⑩					
事業費計		6,545	374	22	

令和2年度の実施状況(事務事業の実施内容等を箇条書きで具体的に記入)

人が集まるサードプレイスとしての可能性を探るため、コワーキングスペースやシェアオフィスの視察を行った。

令和2年度 事務事業評価シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
1	06	01	01	新市民会館建設事業

予算科目				
款	項	目	事	事業名
2	01	09	07	新市民会館建設検討事業

整理番号
106010101

CHECK (評価)	令和2年度活動指標(アウトプット)の達成状況		令和2年度成果指標(アウトカム)の達成状況			
	<ul style="list-style-type: none"> ・庁内検討委員会は開催できていない。 ・建設候補地の協議は実施できなかった。 		事業の方向性について継続して検討する必要がある。			
	妥当性の評価とその理由		有効性の評価とその理由		効率性の評価とその理由	
	A:妥当である 文化芸術によって人々に安らぎを与え、創造力や表現力を引き出す拠点として、市民生活を豊かにする様々な機会と場を提供するため。		A:有効である 基本構想、基本計画を踏まえ、整備手法を決定することができた。		A:効率的である 昨年度改訂した茂原市PPP/PFI導入基本指針に基づき、協議を進めた。	
	「情報の共有」の状況とその理由		「参加」の状況とその理由		「協働」の状況とその理由	
	A:実現している 広く一般に周知するとともに、整備手法を決定するにあたり、民間事業者等とのサウンディングを実施した。		B:実現に向けて取り組んでいる 整備手法の決定については専門家の知識が必要であるが、建設候補地が深刻な水害に遭ったことにより、再び多くの意見を必要とする。		B:実現に向けて取り組んでいる 整備手法の決定については専門家の知識が必要であるが、建設候補地が深刻な水害に遭ったことにより、再び多くの意見を必要とする。	
	所管による評価とその理由、課題・問題点					
	A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)		基本構想、基本計画を踏まえ、整備手法を決定することができたが、建設候補地が深刻な水害に遭ったことにより、再び多くの意見を必要とする。			
	企画政策課での評価とその理由					
	C:事業の対象や手法の見直しが必要(達成度3割以下)		水害及び新型コロナウイルス感染症の影響により、事業進捗のための事業費が確保できない状況である。現時点で検討できる事項を改めて整理することに努めていただきたい。			
政策調整会議での評価とその理由						
庁議における方針						

ACT (改善)	令和3年度活動指標(アウトプット)の設定		令和3年度成果指標(アウトカム)の設定	
	<ul style="list-style-type: none"> ・建設候補地の協議 ・旧市民会館の解体の検討 		<ul style="list-style-type: none"> ・旧市民会館解体の検討 	
令和3年度における具体的な目標		令和3年度における事務事業スケジュール		
<ul style="list-style-type: none"> ・建設候補地の協議 ・旧市民会館の解体の検討 		<ul style="list-style-type: none"> ・課内検討 ・庁内検討委員会 		

令和2年度 事務事業整理シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
1	06	02	01	文化祭開催事業

予算科目				
款	項	目	事	事業名
9	05	01	09	文化祭開催事業

実施計画整理番号	
106020101	
総合戦略 整理番号	0

事務事業の概要	
事業の目的(【だれ・何】を【どのような状態】にするか) 生涯学習活動、文化活動の成果の発表の場を提供し、市民の文化意識の向上を図る。	活動内容(目的を達成するために何を行うか) 茂原市文化協会との共催により、茂原市文化祭を開催する。
令和2年度の具体的な目標 会場確保の問題解決と出品・出演者数の増加を念頭に、市民の学習の機会の確保を充実させる。	令和2年度スケジュール 第69回茂原市文化祭(10月31日～11月25日)美術館・郷土資料館ほか10会場にて開催。 実行委員会を年3回開催。

区分	単位	H29年度			H30年度			令和元年度			令和2年度		
		計画	予算	決算									
事業費	千円	477	477	420	477	479	428	452	452	355	452	435	26
財源内訳	国補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	県補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	市債	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	一般財源	千円	477	477	420	477	479	428	452	452	355	452	435

個別取組	内容	取組に係る費用(千円)			個別取組の達成状況及び今後の方向性
		計画	予算	決算	
①	茂原市文化祭の開催	452	435	26	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止したが、今後も市民文化活動の発表の場として実施していく。
②					
③					
④					
⑤					
⑥					
⑦					
⑧					
⑨					
⑩					
事業費計		452	435	26	

令和2年度の実施状況(事務事業の実施内容等を箇条書きで具体的に記入)

第69回茂原市文化祭(10月)に向けて文化祭実行委員会を開催したが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止した。

令和2年度 事務事業評価シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
1	06	02	01	文化祭開催事業

予算科目				
款	項	目	事	事業名
9	05	01	09	文化祭開催事業

整理番号
106020101

CHECK (評価)	令和2年度活動指標(アウトプット)の達成状況		令和2年度成果指標(アウトカム)の達成状況			
	新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止した。		第1回・第2回の実行委員会を経て中止を決定し、中止の周知もした。			
	妥当性の評価とその理由		有効性の評価とその理由		効率性の評価とその理由	
	A:妥当である	教育委員会と文化協会が共催することで、市民の芸術文化活動が推進できる。	A:有効である	市民の芸術文化活動の発表の場を提供することで活動の推進を図る。	A:効率的である	各団体に発表の機会を提供し、また一堂に会することで入場者の増加を期待できる。
	「情報の共有」の状況とその理由		「参加」の状況とその理由		「協働」の状況とその理由	
	A:実現している	市広報、市公式ウェブサイト、自治回覧を通じて参加募集、日程等の情報を提供している。	A:実現している	茂原市文化祭実行委員会を組織し、参加者や参加団体の要望の機会を提供している。	A:実現している	教育委員会と文化協会等の文化団体により茂原市文化祭実行委員会を組織し、市民と協働による事業運営を行っている。
	所管による評価とその理由、課題・問題点					
	B:ある程度の成果を挙げた(達成度4割~7割)	新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止したが、各団体と会場の割り振りや日程について協議しながら進めることで、効率的かつ市民が来場しやすい事業を計画した。今後も限られた施設規模の中で効率的な事業運営が必要である。				
	企画政策課での評価とその理由					
	B:ある程度の成果を挙げた(達成度4割~7割)	新型コロナウイルス感染症の影響により事業が開催できないことは理解できる。今後は各団体との協議を重ね、ウィズコロナに対応した実施方法も検討し、市民の文化意識を向上に努めていただきたい。				
政策調整会議での評価とその理由						
(斜線表示)						
庁議における方針						
(斜線表示)						

ACT (改善)	令和3年度活動指標(アウトプット)の設定		令和3年度成果指標(アウトカム)の設定	
	<ul style="list-style-type: none"> ・文化祭の開催日数 ・開催会場数 ・文化祭の周知件数 		<ul style="list-style-type: none"> ・来庁者数 ・出演団体、出演者数、出品数 	
令和3年度における具体的な目標		令和3年度における事務事業スケジュール		
各会場に応じた新型コロナウイルス感染症対策を徹底し、市民の学習機会の発表の場を確保する。		第70回茂原市文化祭(10月30日~11月29日)美術館・郷土資料館ほか10会場にて開催。実行委員会を年3回開催。		

令和2年度 事務事業整理シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
1	06	02	01	美術館展示事業

予算科目				
款	項	目	事	事業名
9	05	05	01	美術館展示事業

実施計画整理番号	
106020102	
総合戦略 整理番号	32103

事務事業の概要	
事業の目的(【だれ・何】を【どのような状態】にするか)	活動内容(目的を達成するために何を行うか)
広く市民に芸術文化に触れ、鑑賞できる機会を提供し、地域の芸術文化事業の充実を図るとともに、その振興に資する。	地域ゆかりの作家の作品について周知を図るため、美術収蔵品展の開催を基本としながら、平成31年度には、当館の目玉となる林功作品を生かした企画展を開催する。
令和2年度の具体的な目標	令和2年度スケジュール
年8回の収蔵品展を開催し、PRに努める。 年間展示作品数は、収蔵品展等あわせて200点以上を目標とする。	収蔵品展(通年)

区分	単位	H29年度			H30年度			令和元年度			令和2年度			
		計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算	
事業費	千円	155	155	151	80	569	569	3,031	2,931	2,910	5	5	5	
財源内訳	国補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	県補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	市債	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	その他	千円	0	0	0	0	0	0	420	420	237	0	0	0
	一般財源	千円	155	155	151	80	569	569	2,611	2,511	2,673	5	5	5

個別取組	内容	取組に係る費用(千円)			個別取組の達成状況及び今後の方向性
		計画	予算	決算	
①	美術収蔵品展の開催	5	5	5	収蔵品展の開催(年9回開催)
②	企画展の開催	0	0	0	令和元年、企画展開催済 3年ごとに開催
③					
④					
⑤					
⑥					
⑦					
⑧					
⑨					
⑩					
事業費計		5	5	5	

令和2年度の実施状況(事務事業の実施内容等を箇条書きで具体的に記入)

収蔵品展の開催(年9回)
バーチャルミュージアムによる映像配信(4コンテンツ)

PLAN(計画)

DO(実施)

令和2年度 事務事業評価シート

基本計画					予算科目					整理番号
章	節	項	細	実施計画事業名	款	項	目	事	事業名	106020102
1	06	02	01	美術館展示事業	9	05	05	01	美術館展示事業	

CHECK (評価)	令和2年度活動指標(アウトプット)の達成状況				令和2年度成果指標(アウトカム)の達成状況			
	<ul style="list-style-type: none"> ・収蔵品展回数 9回 ・年間展示作品数 美術品229点、民芸資料307点展示 ・情報提供箇所数 市内公共施設、バーチャルミュージアムによる映像配信 				<ul style="list-style-type: none"> ・収蔵品展期間中の入館者数 14,017人(目標20,000人以上) 			
	妥当性の評価とその理由		有効性の評価とその理由		効率性の評価とその理由			
	A:妥当である	茂原市立美術館所蔵の作品を展示し、市民に芸術文化に触れる機会を提供した。	A:有効である	唯一無二の美術品の展示であるため、類似事業はない。	A:効率的である	必要最低限の経費で業務を完了した。		
	「情報の共有」の状況とその理由		「参加」の状況とその理由		「協働」の状況とその理由			
	A:実現している	市公式ウェブサイトでの公表、広報もばら、地域情報誌への掲載のほか、バーチャルミュージアムによる映像配信を実施した。	C:実現の余地がない	市民美術展をはじめとする共催団体展は、新型コロナウイルスの影響で、全て中止	C:実現の余地がない	共催団体展は、新型コロナウイルスの影響により全て中止		
	所管による評価とその理由、課題・問題点							
B:ある程度の成果を挙げた(達成度4割~7割)	新型コロナウイルスの影響により、4月、5月は休館となり、市民美術展をはじめとする共催団体展、文化祭、小中学校作品展など、全て中止となった。中止となった会場にて閉室状態にならぬよう、美術収蔵品展の会期を、前倒し・延長して実施した。入館者数が減少したとはいえ、コロナ禍において、地域の芸術文化に触れる機会を提供できたことは、充分意義があると考えている。							
企画政策課での評価とその理由								
B:ある程度の成果を挙げた(達成度4割~7割)	新型コロナウイルス感染症の影響はあるものの、地域の芸術文化事業の充実に一定の成果があったと認められる。今後もウィズコロナに対応した開催方法の検討により、市民が芸術文化に触れる機会の提供に努めていただきたい。							
政策調整会議での評価とその理由								
庁議における方針								

A C T (改善)	令和3年度活動指標(アウトプット)の設定				令和3年度成果指標(アウトカム)の設定			
	<ul style="list-style-type: none"> ・収蔵品展回数 ・千葉県移動美術館の開催 ・年間展示作品数 ・情報提供箇所、映像配信 				年間入館者数 20,000人以上			
令和3年度における具体的な目標				令和3年度における事務事業スケジュール				
年8回の収蔵品展を開催し、PRに努める。千葉県移動美術館の開催 年間展示作品数は、200点以上(県移動美術館を含む)を目標とする。				収蔵品展(通年) 千葉県移動美術館(9月~10月)				

令和2年度 事務事業整理シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
1	06	02	01	芸術文化講座事業

予算科目				
款	項	目	事	事業名
9	05	05	03	芸術文化講座事業

実施計画整理番号	
106020103	
総合戦略整理番号	0

事務事業の概要		
P L A N (計 画)	事業の目的(【だれ・何】を【どのような状態】にするか) 広く市民に芸術文化・郷土の歴史に触れ、学習できる機会を提供する。	活動内容(目的を達成するために何を行うか) 美術実技講座、郷土文化講座、歴史セミナー、古文書講座などを開催する。
	令和2年度の具体的な目標	令和2年度スケジュール
	美術実技講座については、一般向けを1回開催する。 郷土文化講座については、歴史セミナーを3回、古文書講座を6回開催する。	美術実技講座については、一般向けを年1回(3月)に開催する。 古文書講座を年6回開催する。 歴史セミナーは年3回(7月・10月・3月)開催する。

区分	単位	H29年度			H30年度			令和元年度			令和2年度		
		計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算
事業費	千円	100	100	100	98	98	73	98	98	83	98	98	51
財源内訳	国補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	県補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	市債	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	一般財源	千円	100	100	100	98	98	73	98	98	83	98	98

個別取組	内容	取組に係る費用(千円)			個別取組の達成状況及び今後の方向性
		計画	予算	決算	
①	美術実技講座の開催	53	47	0	新型コロナウイルスの影響により中止
②	古文書講座の開催	30	30	30	全9回のうち6回実施
③	歴史セミナーの開催	15	21	21	全3回のうち3回実施
④					
⑤					
⑥					
⑦					
⑧					
⑨					
⑩					
事業費計		98	98	51	

令和2年度の実施状況(事務事業の実施内容等を箇条書きで具体的に記入)

美術実技講座の開催(全1回)計画は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、中止。
 古文書講座の開催(全6回)9/26(22人)、10/17(20人)、11/28(20人)、12/26(22人)、1/30(18人)、2/27(22人) 延124人
 歴史セミナーの開催(全3回)延45人
 第1回「20世紀を駆け抜けた政治家千葉三郎～自叙伝『創造に生きて』を読む」7/11(15人)
 第2回「長生地方の仏教美術」10/10(15人)
 第3回「古代の茂原のくらし～国府閣遺跡の発掘調査の成果から」3/20(15人)

D
O
(
実
施
)

令和2年度 事務事業評価シート

基本計画					予算科目					整理番号
章	節	項	細	実施計画事業名	款	項	目	事	事業名	106020103
1	06	02	01	芸術文化講座事業	9	05	05	03	芸術文化講座事業	

CHECK (評価)	令和2年度活動指標(アウトプット)の達成状況					令和2年度成果指標(アウトカム)の達成状況				
	・美術実技講座 1回(一般向け) ・古文書講座 6回(一般向け) ・歴史セミナー 3回(一般向け)					美術実技講座 新型コロナ感染拡大防止のため、中止 古文書講座 新型コロナ感染拡大の影響により、回数を9回から6回とした。定員30人。参加者18人～22人(60%～73%)延124人 場所中央公民館 歴史セミナー 新型コロナ感染拡大の影響により、定員30人から15人に減らして実施(全3回)。参加者各15人(100%)延45人 場所美術館実習室				
	妥当性の評価とその理由		有効性の評価とその理由			効率性の評価とその理由				
	B:ほぼ妥当である 新型コロナの影響で、美術実技講座は中止とし、郷土文化講座は、回数や定員を減らす等して実施した。民間に類似のものは見当たらないため、行政が関与すべき事業である。		A:有効である 新型コロナの影響で、美術実技講座は中止とし、郷土文化講座は回数や定員を減らす等して実施したが、いずれの講座も民間との類似性は少なく、参加希望者も多数ある。芸術・郷土文化の振興に寄与している。			A:効率的である 予算内の金額で講師を引き受けてもらっているため、効率的である。				
	「情報の共有」の状況とその理由		「参加」の状況とその理由			「協働」の状況とその理由				
	A:実現している 市公式ウェブサイトや広報もばら、各地域情報紙4社に情報提供を行っている。記事については引き続き初心者が興味を持つようにしていく。		B:実現に向けて取り組んでいる 郷土文化講座では、新型コロナ対策として、定員を半数にし、回数も減らす等して実施したが、希望者の半数が受講できない。			B:実現に向けて取り組んでいる 参加者に対してアンケートを実施したり、参加者から感想をいただいたりして、講座の内容や実施方法を考慮する。新型コロナの感染状況を見ながら段階的に、従来の定員にもどしていくことを考慮する。				
	所管による評価とその理由、課題・問題点									
	B:ある程度の成果を挙げた(達成度4割～7割)		美術実技講座は、用具・物品を手にとって指導を受ける内容や、長時間にわたる内容の講座があり、新型コロナに対する安全性の配慮から中止とした。 古文書講座は、直接展示と関連がないため、中央公民館の広い会場に変更し、定員を維持して実施。歴史セミナーは、展示会との関連もあり、美術館の実習室で定員を半減して実施した。参加者の感想は高評価だが、歴史セミナーでは受講希望者が定員の2倍程となり、約半数の方が受講できない状態となっているが、新型コロナ対策としてやむを得ない状況となっている。							
	企画政策課での評価とその理由									
	B:ある程度の成果を挙げた(達成度4割～7割)		新型コロナウイルス感染症の影響はあるが、市民に芸術文化・郷土の歴史に触れ、学習できる機会の提供に寄与していると認められる。今後もウィズコロナに対応した開催方法など、工夫しながら事業を展開していただきたい。							
政策調整会議での評価とその理由										
庁議における方針										

A C T (改善)	令和3年度活動指標(アウトプット)の設定					令和3年度成果指標(アウトカム)の設定				
	・美術実技講座開催回数 ・古文書講座開催回数 ・歴史セミナー開催回数					講座の参加者アンケートで、「満足・概ね満足」と回答した割合7割以上を目標とする。				
令和3年度における具体的な目標					令和3年度における事務事業スケジュール					
美術実技講座は、全4回(小学生向け1回、一般向け3回)開催する。 郷土文化講座は、歴史セミナーを3回、古文書講座を9回開催する。(一般向け)					美術実技講座は、小学生向けを1回(8月)一般向けを年3回(10月・11月・3月)開催する。 古文書講座(全9回) 定員30名 5/22・6/26・7/17・9/25・10/23・11/27・12/18・1/22・2/26 歴史セミナー(全3回)(7月・9月・3月) 定員15名 ①「小田原北条氏と茂原」 ②「千葉県簡易農学校～千葉県立茂原農学校へ」 ③仮称「車偶庵の民俗資料について」					

令和2年度 事務事業整理シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
1	06	02	02	文化振興事業

予算科目				
款	項	目	事	事業名
9	05	01	08	文化振興事業

実施計画整理番号	
106020201	
総合戦略整理番号	0

事務事業の概要	
事業の目的(【だれ・何】を【どのような状態】にするか) 市民生活に豊かさを与え、文化の薫り高い茂原市を築く。	活動内容(目的を達成するために何を行うか) 芸術文化鑑賞会や小中学校音楽鑑賞教室を実施する。 各文化団体を支援する。
令和2年度の具体的な目標 より多くの市民に芸術文化に触れる機会を提供する。 文化関係団体を財政的に援助することで組織活動の強化を図る。	令和2年度スケジュール 小中学校音楽鑑賞教室の開催(中)南中・本納中(小)二宮小・西小・五郷小・萩原小・豊岡小 芸術文化鑑賞会の開催 ミュージカル鑑賞会、能・狂言鑑賞会、新春歌舞伎観賞会 もばら音楽祭の支援、文化団体の活動支援 茂原市文化協会(文化祭等) 茂原市音楽協会(音楽の広場等) 南総合合唱連盟(南総コーラスのつどい) 茂原交響楽団(定期演奏会等)

区分	単位	H29年度			H30年度			令和元年度			令和2年度			
		計画	予算	決算										
事業費	千円	3,848	3,848	3,758	3,848	4,400	4,382	4,048	4,048	3,958	4,048	3,848	1,867	
財源内訳	国補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	県補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	市債	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	その他	千円	2,323	2,323	0	2,323	2,359	2,359	2,559	2,559	2,559	2,559	2,359	909
	一般財源	千円	1,525	1,525	3,758	1,525	2,041	2,023	1,489	1,489	1,399	1,489	1,489	958

個別取組	内容	取組に係る費用(千円)			個別取組の達成状況及び今後の方向性
		計画	予算	決算	
①	小中学校音楽鑑賞教室の開催	630	630	180	2校は実施したが、他の5校は新型コロナウイルス感染症の影響で中止した。今後も実施していく。
②	芸術文化鑑賞会の開催	0	0	0	新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止した。今後も実施していく。
③	もばら音楽祭の支援	310	310	253	もばら音楽祭実行委員会が企画運営する音楽祭に対して財政的な支援を行った。今後も支援していく。
④	文化団体の活動支援	3,108	2,908	1,434	文化団体に対して財政的な支援を行った。今後も支援していく。
⑤					
⑥					
⑦					
⑧					
⑨					
⑩					
事業費計		4,048	3,848	1,867	

令和2年度の実施状況(事務事業の実施内容等を箇条書きで具体的に記入)

小中学校音楽鑑賞会の開催 本納中 二宮小 ※南中・西小・五郷小・萩原小・豊岡小が中止
 芸術文化鑑賞会は中止 (ミュージカル鑑賞会、能・狂言鑑賞会、新春歌舞伎鑑賞会)
 もばら音楽祭の支援「トライアングル」中止
 文化団体の活動支援 茂原市文化協会(会報発行等) 茂原市音楽協会(音楽の広場等)中止 南総合合唱連盟(南総コーラスのつどい)中止 茂原市交響楽団(定期演奏会等)中止

PLAN(計画)

DO(実施)

令和2年度 事務事業評価シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
1	06	02	02	文化振興事業

予算科目				
款	項	目	事	事業名
9	05	01	08	文化振興事業

整理番号
106020201

令和2年度活動指標(アウトプット)の達成状況 ・音楽鑑賞教室の開催日数 7校中2校で実施 2回 ・芸術文化鑑賞会の開催日数 中止 ・活動を支援した団体数 25団体	令和2年度成果指標(アウトカム)の達成状況 ・音楽鑑賞教室の参加者数 359人 ・芸術文化鑑賞会の参加者数 中止 ・団体の会員数 1,166人
---------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------

妥当性の評価とその理由		有効性の評価とその理由		効率性の評価とその理由	
A:妥当である	芸術文化事業の実施や文化団体を支援することで、市民の芸術文化活動を推進できる。	A:有効である	事業(団体)を継続的に実施、支援していくことが芸術文化の振興につながり、文化団体の安定的な活動も期待できる。	A:効率的である	初心者や小中学生が親しみやすい事業の計画や補助金交付団体の補助金対象経費の精査を行っている。

「情報の共有」の状況とその理由		「参加」の状況とその理由		「協働」の状況とその理由	
A:実現している	市民参加の事業は、市広報、市公式ウェブサイトで募集している。小中学校音楽鑑賞教室は保護者への案内も行っている。	A:実現している	小中学校音楽鑑賞教室は感想や要望を報告書に記載している。	A:実現している	小中学校音楽鑑賞教室は実施校に企画立案を任せることで特色ある事業を実施している。

C H E C K (評 価)	所管による評価とその理由、課題・問題点 B:ある程度の成果を挙げた(達成度4割~7割) 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、多くの事業が実施できなかったが、芸術文化の鑑賞会も小中学校音楽鑑賞教室も好評を得ている。引き続き文化団体(事業)の支援を継続していくことで、市民文化活動が継続され、文化芸術の振興につながる。
-------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

B:ある程度の成果を挙げた(達成度4割~7割)	企画政策課での評価とその理由 新型コロナウイルス感染症の影響はあるが、一定の成果があったと認められる。今後とも市民が芸術文化に触れる機会を充実させるため、ウィズコロナに対応した実施方法も検討いただきたい。
-------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

政策調整会議での評価とその理由	(This area is currently blank in the image)
-----------------	---------------------------------------------

庁議における方針	(This area is currently blank in the image)
----------	---------------------------------------------

令和3年度活動指標(アウトプット)の設定 ・音楽鑑賞教室の開催日数 ・芸術文化鑑賞会の開催日数 ・活動を支援した団体数	令和3年度成果指標(アウトカム)の設定 ・音楽鑑賞教室の参加者数 ・芸術文化鑑賞会の参加者数 ・団体の会員数
-----------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------

A C T (改 善)	令和3年度における具体的な目標 より多くの市民に芸術文化に触れる機会を提供する。文化関係団体を財政的に援助することで組織活動の強化を図る。
	令和3年度における事務事業スケジュール 小中学校音楽鑑賞教室の開催 東中・早野中・鶴枝小・中の島小・新治小・東部小 もばら音楽祭の支援 文化団体の活動支援 茂原市文化協会(会報発行等) 茂原市音楽協会(音楽の広場等) 南総合合唱連盟(南総コーラスのつどい) 茂原市交響楽団(定期演奏会等)

令和2年度 事務事業整理シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
1	06	03	01	文化財保護保存事業

予算科目				
款	項	目	事	事業名
9	05	01	10	文化財保護保存事業

実施計画整理番号	
106030101	
総合戦略整理番号	32303

事務事業の概要		
PLAN (計画)	<p>事業の目的(【だれ・何】を【どのような状態】にするか)</p> <p>文化財を永く後世に伝え、また有効活用することによりその普及を図る。</p>	<p>活動内容(目的を達成するために何を行うか)</p> <p>茂原市文化財審議会の開催、指定文化財等の保護保存、郷土芸能保存団体の活動支援を実施する。</p>
	<p>令和2年度の具体的な目標</p> <p>水路護岸を修繕し、ミヤコタナゴの生息環境の改善を図る。文化財の調査を実施し、保護保存に努める。郷土芸能保存団体を財政的に支援することにより、組織活動の強化を図る。</p>	<p>令和2年度スケジュール</p> <p>ミヤコタナゴ生息地の環境整備、自然観察会の開催、保護協議会の開催 ヒメハルゼミ生息地の環境整備、抜殻調査の実施、保護協議会の開催 茂原市文化財審議会の開催(年2回)、市指定文化財の新規指定を予定(2件)、市指定文化財管理謝礼</p>

区分	単位	H29年度			H30年度			令和元年度			令和2年度			
		計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算	
事業費	千円	1,451	2,501	2,351	1,253	1,395	1,260	1,501	1,510	1,455	1,263	1,278	859	
財源内訳	国補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	県補助	千円	268	268	279	268	268	281	268	268	282	268	260	36
	市債	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	その他	千円	140	140	49	140	80	53	60	60	39	60	60	57
	一般財源	千円	1,043	2,093	2,023	845	1,047	926	1,173	1,182	1,134	935	958	766

個別取組	内容	取組に係る費用(千円)			個別取組の達成状況及び今後の方向性
		計画	予算	決算	
①	ミヤコタナゴ・ヒメハルゼミ発生地の保護活動	412	408	75	保護協議会を開催するとともに、地元住民と協力し保護に努めた。
②	市指定文化財及び文化遺産の保護・管理活動	447	466	446	市指定文化財等の保護保存、文化財管理者への管理謝礼を払った。
③	郷土芸能等保存団体の活動支援	280	280	280	保存団体に対して財政的な援助を行った。今後も支援していく。
④	郷土芸能発表会の開催	36	36	0	郷土芸能発表会は開催中止となったが、今後も実施していく。
⑤	茂原市文化財審議会の開催	88	88	58	文化財の散逸を防ぎ後世に伝えるため、文化財の調査・指定等を行った。
⑥					
⑦					
⑧					
⑨					
⑩					
事業費計		1,263	1,278	859	

令和2年度の実施状況(事務事業の実施内容等を箇条書きで具体的に記入)

ミヤコタナゴ生息地の環境整備(周辺草刈り2回)
ヒメハルゼミ発生地の環境整備(周辺竹刈り1回)、ヒメハルゼミの総合学習(鶴枝小3年生1回)、保護協議会の開催(1回)
郷土芸能等保存会への補助金交付(17団体)
茂原市文化財審議会の開催(年2回)、市指定文化財の新規指定(1件)長興寺如意輪観音坐像附胎内文書、市指定文化財管理謝礼39件

DO (実施)

令和2年度 事務事業評価シート

基本計画					予算科目					整理番号
章	節	項	細	実施計画事業名	款	項	目	事	事業名	106030101
1	06	03	01	文化財保護保存事業	9	05	01	10	文化財保護保存事業	

CHECK (評価)	令和2年度活動指標(アウトプット)の達成状況				令和2年度成果指標(アウトカム)の達成状況			
	地元住民と協働による環境整備の実施回数 3回(タナゴ、セミ) 協議会等の開催回数 3回(文化財、セミ) 調査の実施回数 中止 郷土の文化財に触れる機会の提供回数 中止(郷土芸能)				・参加人数 30人 ・新規指定文化財の件数 1件			
	妥当性の評価とその理由		有効性の評価とその理由		効率性の評価とその理由			
	A:妥当である	国県市指定文化財等の保護保存を図ることで、文化財に対する理解を深める。	A:有効である	文化財に対する理解が深まることで、郷土愛を育成することができる。	A:効率的である	文化財審議会や保護協議会等の意見をまとめながら事業を進めている。		
	「情報の共有」の状況とその理由		「参加」の状況とその理由		「協働」の状況とその理由			
	A:実現している	市広報紙や市公式ウェブサイトを活用して文化財に関する情報を提供している。	A:実現している	保護協議会に地元住民や関係団体が参加することで意見や要望の機会を提供している。	A:実現している	環境整備や郷土芸能発表会を地元住民や保存団体と協働して行っている。		
	所管による評価とその理由、課題・問題点							
B:ある程度の成果を挙げた(達成度4割~7割)	ミヤコタナゴ、ヒメハルゼミ発生地の環境整備は、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため市職員のみで行った。市指定文化財を新規に指定し、文化財の保護保存、周知を図った。郷土芸能等保存団体に対し財政的援助を行った。							
企画政策課での評価とその理由								
B:ある程度の成果を挙げた(達成度4割~7割)	新型コロナウイルス感染症の影響はあるものの、市民が文化財に対する理解を深めることに一定の成果があったと認められる。より一層関係団体との連携強化及び効果的な周知を図ることで、市民の郷土愛の醸成に努めていただきたい。							
政策調整会議での評価とその理由								
(この欄は斜線が入ります)								
庁議における方針								
(この欄は斜線が入ります)								

A C T (改善)	令和3年度活動指標(アウトプット)の設定				令和3年度成果指標(アウトカム)の設定			
	地元住民と協働による環境整備の実施回数 協議会等の開催回数 調査の実施回数 郷土の文化財に触れる機会の提供回数				・市指定文化財登録件数			
令和3年度における具体的な目標				令和3年度における事務事業スケジュール				
水路の護岸の修繕によりミヤコタナゴの生息環境の改善を図る。 文化財の調査を実施し、保護保存に努める。 郷土芸能保存団体を財政的に支援することにより、組織活動の強化を図る。				ミヤコタナゴ生息地の環境整備、自然観察会の開催、保護協議会の開催 ヒメハルゼミ生息地の環境整備、抜殻調査の実施、保護協議会の開催 茂原市文化財審議会の開催(年2回)、市指定文化財の新規指定を予定(2件)、市指定文化財管理謝礼				

令和2年度 事務事業整理シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
1	06	03	01	郷土資料館展示事業

予算科目				
款	項	目	事	事業名
9	05	05	02	郷土資料館展示事業

実施計画整理番号	
106030103	
総合戦略整理番号	32103

事務事業の概要	
事業の目的(【だれ・何】を【どのような状態】にするか) 広く市民に文化財を公開し、郷土の歴史文化に触れ、学習できる機会を提供することにより、文化財に対する理解を深め、文化財保護思想を普及する。	活動内容(目的を達成するために何を行うか) 郷土の歴史について周知を図るため、郷土資料館常設展示を開催する。 特に子どもたちへの理解と愛着を深められるよう、学校からの見学への解説対応や出前講座などを行う。
令和2年度の具体的な目標	令和2年度スケジュール
テーマ展を年2回、常設展を年2回開催する。 学校等への出前講座や、学校等からの見学時の展示解説対応を引き続き行う。 市史編さん事業で収集した資料を展示に活用する。	常設展示 6/1～8/30、12/26～R3.3/7 企画展 「戦時中の暮らし展」 9/12～12/20 企画展 「スマートインターチェンジ設置に伴う発掘調査の成果—第3次国府関連遺跡」 R3.3/20～6/20 寄贈、寄託された資料の整理 通年 出前講座の依頼や学校からの見学依頼の対応 通年

区分	単位	H29年度			H30年度			令和元年度			令和2年度		
		計画	予算	決算									
事業費	千円	26	26	26	26	16	16	26	26	23	26	26	26
財源内訳	国補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	県補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	市債	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	一般財源	千円	26	26	26	26	16	16	26	26	23	26	26

個別取組	内容	取組に係る費用(千円)			個別取組の達成状況及び今後の方向性
		計画	予算	決算	
①	郷土資料館常設展の開催	26	26	26	テーマ展の開催(年2回) 常設展示(年2回)
②					
③					
④					
⑤					
⑥					
⑦					
⑧					
⑨					
⑩					
事業費計		26	26	26	

令和2年度の実施状況(事務事業の実施内容等を箇条書きで具体的に記入)

常設展示(年2回) ①4/25～8/30 入館者数2,355人、②12/26～3/7 入館者数2,881人
 テーマ展の開催(年2回) ①「戦時中の暮らし展」9/12～12/20 入館者数5,105人、②「スマートインターチェンジ設置に伴う発掘調査の成果—第3次国府関連遺跡」R3.3/20～6/27 入館者数8,790人
 郷土寄託史料 鷺巣丸家文書326点 荻生徂徠書簡1点、郷土寄贈資料 木崎鶴岡家文書1,912点、東茂原椎名家資料49品目297点
 出前講座 ①鶴枝小7/9(6年生44人)②鶴枝小2/26(3年生25人)③中の島小9/9(6年生61名) 校外学習 五郷小3/5(6年生43人+教員4人)
 パーチャルミュージアムによる映像配信

令和2年度 事務事業評価シート

基本計画					予算科目					整理番号
章	節	項	細	実施計画事業名	款	項	目	事	事業名	106030103
1	06	03	01	郷土資料館展示事業	9	05	05	02	郷土資料館展示事業	

CHECK (評価)	令和2年度活動指標(アウトプット)の達成状況				令和2年度成果指標(アウトカム)の達成状況			
	<ul style="list-style-type: none"> ・テーマ展の実施回数 2回 ・常設展示回数 2回 ・出前講座回数 3回 ・校外学習 1回 ・資料の寄託2件、寄贈2件 				入館者数 14,017人(目標35,000人)			
	妥当性の評価とその理由		有効性の評価とその理由		効率性の評価とその理由			
	A:妥当である 学芸員や市史編さんのための調査研究により、市内に現存する優れた文化財や館収蔵資料を展示し、広く市民に、郷土の歴史を学習する機会を提供するものである。		A:有効である 近隣他館との類似性はあるが、当館でしか見られない歴史資料(県指定文化財「人車」)や国府関連遺跡出土木製品等を展示している。		A:効率的である 必要最低限の予算で事業を執行している。			
	「情報の共有」の状況とその理由		「参加」の状況とその理由		「協働」の状況とその理由			
	A:実現している 市公式ウェブサイトや広報もばらの他、地域情報紙や各新聞社等に情報を提供している。		A:実現している 休日や展示替期間中以外は、すべて観覧できる。出前講座や校外学習により市民参加の機会を提供している。		B:実現に向けて取り組んでいる 市史編さん事業が進むにつれて、資料提供者が増え、展示に活用できる資料が増えている。			
所管による評価とその理由、課題・問題点								
B:ある程度の成果を挙げた(達成度4割~7割)		新型コロナウイルス感染の拡大に伴い入館者数が減少してしまったが、学校からの見学対応や出前講座は実施している。年2回のテーマ展や常設展も目標どおり実施し、テーマ展の実施を通して新資料の提供もあった。しかしながら、収集した資料をより効果的に公開するために、展示用のパネルやガラスケースの購入が必要である。						
企画政策課での評価とその理由								
B:ある程度の成果を挙げた(達成度4割~7割)		新型コロナウイルス感染症の影響はあるが、計画どおり事業を展開していることから一定の成果があったと認められる。今後もウィズコロナに対応した開催方法の検討や、より効果的な公開方法などを研究することで入館者の増加を図り、市民等へ文化財に対する理解及び文化財保護思想を深める機会の創出に努めていきたい。						
政策調整会議での評価とその理由								
庁議における方針								

ACT (改善)	令和3年度活動指標(アウトプット)の設定				令和3年度成果指標(アウトカム)の設定			
	<ul style="list-style-type: none"> ・テーマ展の実施回数 ・常設展の実施回数 ・出前講座の実施回数 ・学校等からの見学時の展示解説対応回数 				年間入館者数 20,000人以上			
令和3年度における具体的な目標				令和3年度における事務事業スケジュール				
テーマ展を年2回、常設展を年2回開催する。学校等への出前講座や、学校等からの見学時の展示解説対応を引き続き行う。市史編さん事業で収集した資料を展示に活用する。バーチャルミュージアムによる映像配信。				常設展示 7/3~9/5、12/18~3/6 第1回テーマ展(市史編さん事業展示)「千葉県簡易農学校~千葉県立茂原農学校へ」9/18~12/12 第2回テーマ展 仮称「車偶庵の民俗資料その1 絵馬と郷土玩具」R4.3/19~6/19 寄贈、寄託された資料の整理 通年 出前講座や学校からの見学依頼の対応 通年				

令和2年度 事務事業整理シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
1	06	03	02	市史編纂事業

予算科目				
款	項	目	事	事業名
9	05	05	07	市史編纂事業

実施計画整理番号	
106030201	
総合戦略整理番号	32103

事務事業の概要	
事業の目的(【だれ・何】を【どのような状態】にするか)	活動内容(目的を達成するために何をを行うか)
昭和30年に本納町史が、昭和41年に茂原市史が刊行されて以来、市史の発行は無い。市制70周年を目前に市史刊行を行い、市民に茂原市の歴史の変遷を明らかにしてゆくとともに、郷土愛を育み、後世に市の歴史を継承する。	市史編纂委員会の会議に基き、出張を伴った、市内外にある茂原市に関する資料等の所在調査、目録作成を行う他、市史の原稿執筆を依頼するなど本格的な活動を行う。
令和2年度の具体的な目標	令和2年度スケジュール
市史編さん委員会の開催 茂原市史資料編(原始・古代・中世)の刊行に向けた、調査と原稿執筆の実施 市史編さん事業講演会の開催 茂原市史調査報告書の刊行	市史編さん委員会の開催 年4回 調査 通年 原稿執筆 10月より 市史編さん事業講演会 令和3年2月 茂原市史調査報告書の刊行 9月まで第5集、令和3年3月まで第6集を刊行する

区分	単位	H29年度			H30年度			令和元年度			令和2年度			
		計画	予算	決算										
事業費	千円	2,200	2,200	2,108	1,909	2,505	2,261	2,696	3,138	2,712	5,366	4,837	3,952	
財源内訳	国補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	県補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	市債	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	その他	千円	0	0	0	0	5	11	5	5	4	0	10	5
	一般財源	千円	2,200	2,200	2,108	1,909	2,500	2,250	2,691	3,133	2,708	5,366	4,827	3,947

個別取組	内容	取組に係る費用(千円)			個別取組の達成状況及び今後の方向性
		計画	予算	決算	
①	市史編纂調査員による資料調査	1,601	1,503	1,500	茂原市史調査67回、資料調査106回
②	市史編纂委員会の開催	290	1,122	977	全4回のうち4回開催
③	市史調査報告書(旧資料集)の刊行	675	696	629	茂原市史調査報告書第5集、第6集2冊刊行
④	市史の原稿執筆依頼	2,800	1,500	830	茂原市史資料編(原始・古代・中世)考古資料215ページ、歴史資料200ページ分原稿入稿
⑤	市史編さん業務備品の整備	0	16	16	バッファロー製ハードディスク1台(2テラ)
⑥					
⑦					
⑧					
⑨					
⑩					
事業費計		5,366	4,837	3,952	

令和2年度の実施状況(事務事業の実施内容等を箇条書きで具体的に記入)

- ・市史編さん委員会(年4回) 5/16、9/5、12/12、3/6
- ・茂原市史資料調査(原始古代・中世・近世・民俗、建造部門等)を実施。市史調査(市内外、考古資料、古文書、仏像調査等)106回、資料調査(調査報告書刊行等のための調査)67回
- ・市史調査報告書2冊刊行 第5集9/30に、第6集はR3.3/11に刊行
- ・市史編さん事業講演会(1回)「戦国期の茂原市域一長南武田氏を中心に」 定員15名(参加15名) R3.2/13
- ・市史資料編(原始・古代・中世)原稿作成。考古資料215ページ分 歴史資料200ページ分入稿

令和2年度 事務事業評価シート

基本計画					予算科目				整理番号	
章	節	項	細	実施計画事業名	款	項	目	事	事業名	106030201
1	06	03	02	市史編纂事業	9	05	05	07	市史編纂事業	

CHECK (評価)	令和2年度活動指標(アウトプット)の達成状況					令和2年度成果指標(アウトカム)の達成状況				
	<ul style="list-style-type: none"> ・市史編さん委員会開催回数 4回 ・調査協力員選定数 6人 ・調査員による調査回数 67回 ・市史資料編(原始・古代・中世)原稿 考古資料215ページ分、歴史資料200ページ分入稿 					<ul style="list-style-type: none"> ・調査執筆委員委嘱人数 7人 ・有識者による調査回数 106回 ・茂原市史調査報告書第5集・第6集 2冊発行 発行部数各500部 ・資料調査回数 173回 ・市史編さん事業講演会 1回(参加者数 15人) ・市史資料編(原始・古代・中世)原稿415ページ分入稿 				
	妥当性の評価とその理由		有効性の評価とその理由			効率性の評価とその理由				
	A:妥当である	市史の発行は客観的かつ専門的知識が求められるものであり、市が編さんしていく必要がある。		A:有効である	『本納町史』(昭和30年)、『豊岡村誌』(昭和38年)、『茂原市史』(昭和41年)刊行より年数が経過し、この間、新たな資料が多数発見されているため、市史全体の見直しが必要となっている。		A:効率的である	市史編さん委員会委員、調査執筆委員、調査員は専門性も高く、経験・実績が豊富であるが、民間委託に比べて安価で効率的である。		
	「情報の共有」の状況とその理由		「参加」の状況とその理由			「協働」の状況とその理由				
	A:実現している	市史編さんの活動を知ってもらうため年2回(7月・2月)広報もばらで紹介している他、展示や市史編さん事業講演会を通して調査の成果を公開している。		A:実現している	市史編さん事業について、広報や市公式ウェブサイト、展示、事業講演会を通じて、市民や寺社、企業等から資料の提供、調査の協力を受けている。		A:実現している	市民や寺社、企業等から資料の提供、調査の協力を受けている。		
	所管による評価とその理由、課題・問題点									
B:ある程度の成果を挙げた(達成度4割~7割)	令和4年度からの市史刊行をめざし、市内外の調査や原稿の執筆を進め、約半分程原稿作成も進んだが、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、県内、県外の公共機関、茂原に関する史料を所蔵する寺社等への調査は進まなかった。今後、新型コロナウイルスの影響を見ながら、市内、周辺地域の寺社や公共機関での調査をベースに調査を進めていくことを検討している。また令和4年度以降2年度ごとに市史を刊行していく計画のため、調査報酬、原稿執筆、印刷製本のための予算を継続的に確保していく必要がある。									
企画政策課での評価とその理由										
B:ある程度の成果を挙げた(達成度4割~7割)	新型コロナウイルス感染症の影響はあるものの、市史の刊行に向けて一定の成果を挙げていると認められる。引き続き、効率的な資料調査などを実施することで、市史の刊行に向けて事業を進めるとともに、市民の郷土愛の醸成に努めていきたい。									
政策調整会議での評価とその理由										
庁議における方針										

ACT (改善)	令和3年度活動指標(アウトプット)の設定					令和3年度成果指標(アウトカム)の設定				
	<ul style="list-style-type: none"> ・市史編さん委員会開催回数 ・調査員の調査回数 ・有識者等による調査回数 					令和4年度の「茂原市史 原始・古代・中世 考古資料編」の刊行に向け原稿を完成させる。				
令和3年度における具体的な目標					令和3年度における事務事業スケジュール					
<ul style="list-style-type: none"> ・市史編さん委員会の開催 ・茂原市史資料編(原始・古代・中世)の刊行に向けた原稿作成及び年度末までに原稿を完成させる。 ・市史編さん事業講演会の開催 ・茂原市史調査報告書第7集の刊行 					<ul style="list-style-type: none"> ・市史編さん委員会の開催 年4回 ・市史調査 通年 ・原稿執筆 3月末までに入稿 ・市史編さん事業講演会 令和4年2月 ・茂原市史調査報告書第7集の刊行 令和4年3月 					

令和2年度 事務事業整理シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
1	07	01	01	青少年健全育成事業

予算科目				
款	項	目	事	事業名
9	05	01	04	青少年健全育成事業

実施計画整理番号	
107010101	
総合戦略整理番号	0

事務事業の概要	
事業の目的(【だれ・何】を【どのような状態】にするか) 青少年の健全育成を推進する。	活動内容(目的を達成するために何を行うか) 関係団体を助成するとともに、青少年健全育成事業を実施する。
令和2年度の具体的な目標 ・関係団体に補助金を交付し、活動を支援する。 ・関係団体との連携を強化するとともに、情報提供の充実を図る。	令和2年度スケジュール ・関係団体への補助金交付 ①青少年相談員連絡協議会(3月) ②青少年育成茂原市民会議(6月概算払) ③青少年少女発明クラブ(3月) ④茂原市子どもセンター(6月概算払) ・関係団体の会議、行事の開催 ①青少年相談員連絡協議会(通年) ②青少年育成茂原市民会議(通年) ・青少年問題協議会の開催(3月)

区分	単位	H29年度			H30年度			令和元年度			令和2年度		
		計画	予算	決算									
事業費	千円	2,399	2,399	2,399	2,399	2,417	2,417	2,362	2,362	2,284	2,362	2,363	2,031
財源内訳	国補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	県補助	千円	400	400	400	400	400	375	375	375	375	375	375
	市債	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	一般財源	千円	1,999	1,999	1,999	1,999	2,017	2,022	1,987	1,987	1,909	1,987	1,988

個別取組	内容	取組に係る費用(千円)			個別取組の達成状況及び今後の方向性
		計画	予算	決算	
①	青少年相談員の活動支援	978	978	725	青少年相談員連絡協議会に補助金を交付し、活動を支援した。今後も引き続き支援を行う。
②	スポーツ大会の開催	71	72	0	コロナ禍により、青少年相談員と共催のつつじマラソン大会が実施できなかった。
③	青少年育成茂原市民会議・青少年問題協議会の開催	1,022	1,022	1,015	青少年育成茂原市民会議に補助金を交付し、活動を支援した。今後も引き続き支援を行う。青少年問題協議会を開催、青少年に関する事項を協議した。今後も継続する。
④	茂原青少年少女発明クラブの活動支援	30	30	30	茂原青少年少女発明クラブに補助金を交付し、活動を支援した。今後も引き続き支援を行う。
⑤	子どもセンターの運営支援	261	261	261	茂原市子どもセンター協議会に補助金を交付し、活動を支援した。今後も引き続き支援を行う。
⑥					
⑦					
⑧					
⑨					
⑩					
事業費計		2,362	2,363	2,031	

令和2年度の実施状況(事務事業の実施内容等を箇条書きで具体的に記入)

- ・青少年の健全育成を図るため、関係団体に補助金を交付し活動を支援した。
 - ①青少年相談員連絡協議会 669千円(実施:バトロール、行事用備品購入 中止:グラウンドゴルフ大会、つつじマラソン等)
 - ②青少年育成茂原市民会議 986千円(実施:標語コンクール、小中学校に感染症対策用品を配付 中止:講演会、少年の主張大会、ジャンピング大会)
 - ③茂原青少年少女発明クラブ 30千円
 - ④茂原市子どもセンター協議会 261千円
- ・青少年問題協議会を開催(1回)

令和2年度 事務事業評価シート

基本計画					予算科目					整理番号
章	節	項	細	実施計画事業名	款	項	目	事	事業名	107010101
1	07	01	01	青少年健全育成事業	9	05	01	04	青少年健全育成事業	

CHECK (評価)	令和2年度活動指標(アウトプット)の達成状況				令和2年度成果指標(アウトカム)の達成状況			
	<ul style="list-style-type: none"> ・青少年問題協議会の開催回数 1回 ・活動を支援した団体数 4団体 ・青少年健全育成関連事業の実施回数 1回 				<ul style="list-style-type: none"> ・事業の参加者数 標語コンクール(応募2,080件)、少年の主張大会(中止)、僕と私のジャンピング大会(中止)、つつじマラソン大会(中止) ・青少年問題協議会の参加者数 15人 			
	妥当性の評価とその理由		有効性の評価とその理由		効率性の評価とその理由			
	A:妥当である	青少年の健全育成を図るためには関係団体の活動が不可欠であることから、支援は妥当である。	A:有効である	青少年育成事業の充実、環境浄化、非行防止等、各団体の目的達成のために補助金が有効活用されている。	A:効率的である	団体の運営資金の一部を補助しており、効率的である。		
	「情報の共有」の状況とその理由		「参加」の状況とその理由		「協働」の状況とその理由			
	A:実現している	市公式ウェブサイトや広報、各団体の広報紙により活動等を公表している。	A:実現している	各団体の意見を反映している。	A:実現している	市民で構成される団体である青少年相談員と青少年育成茂原市民会議の事務局を生涯学習課が務めている。		
	所管による評価とその理由、課題・問題点							
B:ある程度の成果を挙げた(達成度4割~7割)	コロナ禍により、計画した事業の多くが中止となったが、代替事業の実施や事業内容の見直し等を行った。なお、青少年健全育成で成果を挙げるためには長期的な取り組みが求められることから、関係団体の活動支援や団体との共同事業は今後も継続していく必要がある。また、事業の効果を高めるためにPRの強化も必要である。							
企画政策課での評価とその理由								
B:ある程度の成果を挙げた(達成度4割~7割)	新型コロナウイルス感染症による影響はあるが、代替事業の実施や事業内容の見直しを等による成果は認められる。引き続き、適正に補助金を交付し関係団体の活動を支援するとともに、参加者を増加させるための効果的な周知についても検討されたい。							
政策調整会議での評価とその理由								
庁議における方針								

A C T (改善)	令和3年度活動指標(アウトプット)の設定				令和3年度成果指標(アウトカム)の設定			
	<ul style="list-style-type: none"> ・活動を支援した団体数 ・青少年健全育成関連行事の実施回数 				<ul style="list-style-type: none"> ・青少年健全育成関連行事への参加者数 			
令和3年度における具体的な目標				令和3年度における事務事業スケジュール				
<ul style="list-style-type: none"> ・関係団体に補助金を交付し、活動を支援する。 ・関係団体との連携を強化するとともに、情報提供の充実を図る。 				<ul style="list-style-type: none"> ・関係団体への補助金交付 <ul style="list-style-type: none"> ① 青少年相談員連絡協議会(3月) ② 青少年育成茂原市民会議(6月概算払) ③ 少年少女発明クラブ(3月) ④ 茂原市子どもセンター(6月概算払) ・関係団体の会議、行事の開催 <ul style="list-style-type: none"> ① 青少年相談員連絡協議会(通年) ② 青少年育成茂原市民会議(通年) ・青少年問題協議会の開催(3月) 				

令和2年度 事務事業整理シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
1	07	01	02	家庭教育学級開催事業

予算科目				
款	項	目	事	事業名
9	05	01	03	家庭教育学級開催事業

実施計画整理番号	
107010201	
総合戦略整理番号	0

事務事業の概要	
事業の目的(【だれ・何】を【どのような状態】にするか) 幼児・児童を持つ保護者を対象に学級・講座を開催し、幼児・児童の健やかな成長を推進する。	活動内容(目的を達成するために何を行うか) 就学前の保護者を対象に「就学时子育て講座」、3歳児の保護者を対象に「幼児期家庭教育学級」、幼稚園児・小学生の保護者を対象に「家庭教育学級」を開催する。
令和2年度の具体的な目標 参加者の増加を図る。	令和2年度スケジュール ①幼児期家庭教育学級 実施予定回数 5回 ②家庭教育学級 実施予定回数 64回 ③就学児子育て講座 実施予定回数 14回

区分	単位	H29年度			H30年度			令和元年度			令和2年度		
		計画	予算	決算									
事業費	千円	614	614	500	614	614	527	583	583	489	583	650	409
財源内訳	国補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	県補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	市債	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	一般財源	千円	614	614	500	614	614	527	583	583	489	583	650

個別取組	内容	取組に係る費用(千円)			個別取組の達成状況及び今後の方向性
		計画	予算	決算	
①	就学时子育て講座の開催	140	140	140	就学を控えた児童の保護者を対象に、子育てに関する学びの機会を提供した。今後も引き続き事業を実施する。
②	幼児期家庭教育学級の開催	137	204	145	3歳児の保護者を対象に、子育てに関する学びの機会を提供した。今後も引き続き事業を実施する。
③	家庭教育学級の開催	306	306	124	幼稚園3園、小学校14校の保護者に、家庭における教育について学ぶ機会及び保護者同士の交流の場を提供した。今後も引き続き事業を実施する。
④					
⑤					
⑥					
⑦					
⑧					
⑨					
⑩					
事業費計		583	650	409	

令和2年度の実施状況(事務事業の実施内容等を箇条書きで具体的に記入)

- ①幼児期家庭教育学級 実施回数 5回 / 延べ参加人数 68人
- ②家庭教育学級 実施回数 18回 / 延べ参加人数 306人
- ③就学児子育て講座 実施回数 14回 / 延べ参加人数 526人

令和2年度 事務事業評価シート

基本計画					予算科目					整理番号
章	節	項	細	実施計画事業名	款	項	目	事	事業名	107010201
1	07	01	02	家庭教育学級開催事業	9	05	01	03	家庭教育学級開催事業	

CHECK (評価)	令和2年度活動指標(アウトプット)の達成状況				令和2年度成果指標(アウトカム)の達成状況			
	・開催回数 ①幼児期家庭教育学級 5回 ②家庭教育学級 18回 ③就学児子育て講座 14回				・参加人数(累計) ①幼児期家庭教育学級 68人 ②家庭教育学級 306人 ③就学児子育て講座 526人			
	妥当性の評価とその理由		有効性の評価とその理由		効率性の評価とその理由			
	A:妥当である	社会教育法で市町村教育委員会事務の一つに位置付けられている。また、総合計画とも整合するものであり、妥当である。	A:有効である	受講後のアンケートでは概ね良好な評価が得られており、有効である。	A:効率的である	必要最低限のコストで実施しており、効率的である。		
	「情報の共有」の状況とその理由		「参加」の状況とその理由		「協働」の状況とその理由			
	A:実現している	各学級、講座の対象者に情報を提供している。	A:実現している	アンケートにより受講者の意見を吸い上げている。	A:実現している	PTA等と協力して実施している。		
	所管による評価とその理由、課題・問題点							
A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)	子どもの発達段階に応じた学級を開催し、ニーズに対応した。事後の評価も概ね良好であり、十分な成果を挙げている。子どもの健全な成長にとって家庭教育が果たす役割は非常に重要であり、本事業は行政の取り組みとして優先度は高いと考える。このことから、今後も事業内容を縮小することなく継続して提供していくことが望ましい。							
企画政策課での評価とその理由								
A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)	幼児・児童を持つ保護者のニーズに対応した事業を実施することで、一定の成果を挙げていると認められる。今後とも、保護者のニーズに合わせた事業を展開することで参加者の増加を図り、ひいては幼児・児童の健やかな成長がより一層図られるよう努めていただきたい。							
政策調整会議での評価とその理由								
庁議における方針								

ACT (改善)	令和3年度活動指標(アウトプット)の設定				令和3年度成果指標(アウトカム)の設定			
	・開催回数				・参加人数(累計)			
令和3年度における具体的な目標				令和3年度における事務事業スケジュール				
参加者の増加を図る。				①幼児期家庭教育学級 実施予定回数 5回 ②家庭教育学級 実施予定回数 45回 ③就学児子育て講座 実施予定回数 13回				

令和2年度 事務事業整理シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
1	07	01	02	放課後子ども教室推進事業

予算科目				
款	項	目	事	事業名
9	05	01	12	放課後子ども教室推進事業

実施計画整理番号	
107010202	
総合戦略整理番号	22304

事務事業の概要	
事業の目的(【だれ・何】を【どのような状態】にするか)	活動内容(目的を達成するために何を行うか)
夏休み期間中の子どもの安全・安心な居場所づくりと異年齢交流、地域教育力の活性化を目的に夏休み子ども教室を開催する。また、放課後子どもプラン運営委員会において事業の検証を行い、開催校を順次増やすことで推進を図る。	・夏休み子ども教室の開催校を増やす ・放課後子どもプラン運営委員会の開催(年2回) ・コーディネーターの育成のため各種研修会に参加する
令和2年度の具体的な目標	令和2年度スケジュール
定員を拡大し、可能な限り多くの児童を受け入れる。	・豊田っ子クラブ 期間:7/22~7/24 平日3日間 ・緑ヶ丘っ子クラブ 期間:7/29~7/31 平日3日間 ・中の島っ子クラブ 期間:8/3~8/5 平日3日間 ・鶴枝っ子クラブ 期間:8/5~8/7 平日3日間 ・本納っ子クラブ 期間:8/17~8/19 平日3日間 ・茂原っ子クラブ 期間:8/24~8/26 平日3日間

区分	単位	H29年度			H30年度			令和元年度			令和2年度		
		計画	予算	決算									
事業費	千円	377	377	301	472	448	284	379	372	259	379	379	0
財源内訳	国補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	県補助	千円	250	250	200	313	298	188	252	252	172	252	0
	市債	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	一般財源	千円	127	127	101	159	150	96	127	120	87	127	379

個別取組	内容	取組に係る費用(千円)			個別取組の達成状況及び今後の方向性
		計画	予算	決算	
①	放課後子どもプラン運営委員会の開催	88	88	0	事業実施前後に1回ずつ実施し(新型コロナウイルス感染症対策のため書面会議)事業の検証を行った。現状維持。
②	夏休み子ども教室の開催	291	291	0	新型コロナウイルス感染症の影響により実施予定であった全校で中止となった。同感染症の蔓延状況を勘案しながら拡大。
③					
④					
⑤					
⑥					
⑦					
⑧					
⑨					
⑩					
事業費計		379	379	0	

令和2年度の実施状況(事務事業の実施内容等を箇条書きで具体的に記入)

新型コロナウイルス感染症の影響により、夏期休業期間の大幅な短縮があったため夏休み子ども教室については実施せず。また、放課後子どもプラン運営委員会については、当該感染症の拡大防止の観点から書面会議(2回)としたため、委員報酬の発生無し。
上記理由により予算執行が無かった。

令和2年度 事務事業評価シート

基本計画					予算科目					整理番号
章	節	項	細	実施計画事業名	款	項	目	事	事業名	107010202
1	07	01	02	放課後子ども教室推進事業	9	05	01	12	放課後子ども教室推進事業	

CHECK (評価)	令和2年度活動指標(アウトプット)の達成状況				令和2年度成果指標(アウトカム)の達成状況			
	夏休み子ども教室の開催数 0回 ※新型コロナウイルス感染症の影響により、夏期休業期間に大幅な短縮があったため				参加者アンケートで「子どもを参加させて良かった」と答えた保護者の割合 0% ※新型コロナウイルス感染症の影響により、夏期休業期間に大幅な短縮があったため夏休み子ども教室を開催せず			
	妥当性の評価とその理由		有効性の評価とその理由		効率性の評価とその理由			
	A:妥当である	国の推進する新・放課後子ども総合プランによる事業であり妥当である。	A:有効である	事業の意図する子どもの安心・安全な居場所づくりと異年齢交流は達成されており有効である。	A:効率的である	費用は運営委員の報酬、コーディネーターの謝礼及び最低限の消耗品費のみであり、削減の余地は無い。		
	「情報の共有」の状況とその理由		「参加」の状況とその理由		「協働」の状況とその理由			
	A:実現している	広報及びウェブページにより周知している。	A:実現している	事業の検証等を行う「放課後子どもプラン運営委員会」に委員として市民が参加している。	A:実現している	コーディネーター、学習支援ボランティアとして地域住民が運営に参加している。		
	所管による評価とその理由、課題・問題点							
	C:事業の対象や手法の見直しが必要(達成度3割以下)	新型コロナウイルス感染症の影響により学校が臨時休校となり、夏期休業期間に大幅な短縮が生じたため令和2年度の夏休み子ども教室の実施を中止した。						
企画政策課での評価とその理由								
C:事業の対象や手法の見直しが必要(達成度3割以下)	新型コロナウイルス感染症の影響により事業が実施できなかったことは理解できる。今後はウィズコロナに対応した実施方法も調査・研究し、子どもの安全・安心な居場所づくりに資するよう努めていただきたい。							
政策調整会議での評価とその理由								
庁議における方針								

A C T (改善)	令和3年度活動指標(アウトプット)の設定				令和3年度成果指標(アウトカム)の設定			
	夏休み子ども教室の開催数				参加者アンケートで「子どもを参加させて良かった」と答えた保護者の割合			
令和3年度における具体的な目標				令和3年度における事務事業スケジュール				
夏休み子ども教室の開催数の増				<ul style="list-style-type: none"> ・豊田っ子クラブ 期間: 7/25~7/27 平日3日間 ・二宮っ子クラブ 期間: 8/1~8/3 平日3日間 ・中の島っ子クラブ 期間: 8/3~8/5 平日3日間 ・鶴枝っ子クラブ 期間: 8/10~8/12 平日3日間 ・本納っ子クラブ 期間: 8/22~8/24 平日3日間 ・萩原っ子クラブ 期間: 8/24~8/26 平日3日間 ・茂原っ子クラブ 期間: 8/29~8/31 平日3日間 				

令和2年度 事務事業整理シート

基本計画			
章	節	項	細
実施計画事業名			
1	07	01	03
青少年相談指導事業			

予算科目			
款	項	目	事
事業名			
9	05	04	01
環境浄化と非行防止事業			

実施計画整理番号	
107010301	
総合戦略整理番号	0

事務事業の概要	
事業の目的(【だれ・何】を【どのような状態】にするか)	活動内容(目的を達成するために何を行うか)
茂原市青少年補導員連絡協議会と連携し、街頭補導・相談活動・環境浄化活動・啓発活動を推進し、青少年の健全育成に努める。	「夜間の街頭補導」を充実する。 「列車補導」「茂原七夕まつり」「県下一斉パトロール」等の啓発補導を充実する。 他支部との連携や研修会へ補導員とともに積極的に参加する。 相談体制を整え相談活動をより充実する。 ネットパトロールを充実する。 登下校時のパトロールを充実する。
令和2年度の具体的な目標	令和2年度スケジュール
青少年の非行防止・早期発見のため関係機関との情報の共有化と迅速な対応を図る。 青少年問題の未然防止と相談窓口としての機能充実に努める。	①街頭補導活動→夜間補導(6月～3月)、七夕まつり補導(7月)、県下一斉パトロール(7月)、列車補導(10～11月) ②相談活動→通年、悩み・相談用しおり配布(10月) ③環境浄化活動→ネットパトロール通年 ④非行防止の啓発→リーフレット配布(5月)、広報紙「くす」(月1回 8月除く) ⑤子どもの安全を守る活動→登下校時パトロール(通年 8月除く)、不審者発生時の対応(随時)

区分	単位	H29年度			H30年度			令和元年度			令和2年度		
		計画	予算	決算									
事業費	千円	1,295	1,300	1,229	1,257	1,242	1,231	1,263	1,263	1,215	1,268	1,267	1,218
財源内訳	国補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	県補助	千円	250	250	250	250	250	250	250	250	250	250	250
	市債	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	一般財源	千円	1,045	1,050	979	1,007	992	981	1,013	1,013	965	1,018	1,017

個別取組	内容	取組に係る費用(千円)			個別取組の達成状況及び今後の方向性
		計画	予算	決算	
①	街頭補導活動の実施	869	869	868	街頭補導活動を実施する青少年補導員連絡協議会に補助金、青少年補導員に謝礼金を交付した。今後も現状の街頭補導活動を維持していく。
②	相談活動の実施	0	0	0	主に中高生に関する相談を受理した。今後も広報紙くす等で相談機関としての周知に努め、相談活動を維持していく。
③	環境浄化活動の実施	69	69	68	ネットパトロールを実施し、問題がある投稿については、学校等に報告した。今後も青少年のインターネット上のトラブルを未然に防止するために現状の活動を維持していく。
④	非行防止の啓発	168	173	167	広報紙くすや相談案内のしおり、インターネットの安全な使用についてのリーフレットを小中学校等に配布した。今後も同様な啓発活動を継続していく。
⑤	子どもの安全を守る活動の実施	162	156	115	青色防犯パトロールカーを使い、登下校時の安全確保に努めた。不審者発生時は、警戒パトロールを実施した。今後も現状の活動を継続していく。
⑥					
⑦					
⑧					
⑨					
⑩					
事業費計		1,268	1,267	1,218	

令和2年度の実施状況(事務事業の実施内容等を箇条書きで具体的に記入)

- ① 青少年指導センター職員と青少年補導員(70名に委嘱)が、夜間街頭補導を59回実施
- ② 訪問・来所・電話・メールにて102件の相談を受理
- ③ ネットパトロール(週3日)を実施し、問題がある投稿については学校、警察に報告
- ④ 青少年指導センター広報紙「くす」(8月を除く毎月)、リーフレット「ケータイ&スマホの正しい使い方」(6月)、しおり「悩み・相談の窓口」(9月)を小中学生等に配布
- ⑤ 登校時(週3日)、下校時(毎日)、緊急時に青色防犯パトロールカーで巡回を実施

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
1	07	01	03	青少年相談指導事業

予算科目				
款	項	目	事	事業名
9	05	04	01	環境浄化と非行防止事業

整理番号
107010301

CHECK (評価)	令和2年度活動指標(アウトプット)の達成状況		令和2年度成果指標(アウトカム)の達成状況			
	<ul style="list-style-type: none"> 職員定時パトロール 500回 職員青少年補導員による街頭補導 59回 相談事業の周知 13回 (くす11回、しおり1回、リーフレット1回) ネットパトロール実施 140回 不審者情報の把握 39件 		<ul style="list-style-type: none"> 補導人数 217名 (主に、自転車等危険行為) 相談件数 102件 (主に、学校・家庭生活の悩み) ネットパトロール報告 5件 不審者情報の発信 39件 			
	妥当性の評価とその理由		有効性の評価とその理由		効率性の評価とその理由	
	A:妥当である	市内青少年の健全育成のためには、青少年補導員と連携した街頭補導が必要不可欠である。	A:有効である	年間を通した補導活動や相談活動は、青少年の健全育成や非行防止に役立っている。	A:効率的である	必要最低限のコストで実施しており、効率的である。
	「情報の共有」の状況とその理由		「参加」の状況とその理由		「協働」の状況とその理由	
	A:実現している	青少年の補導や相談の状況は広報紙くす、不審者情報は市公式ウェブサイトや広報紙くすに掲載し、市民に情報を発信している。	A:実現している	運営協議会を年2回開催し、委員10名より青少年指導センターの事業に対する意見や助言をいただいている。	A:実現している	他団体や教育委員会からの委嘱を受けて選出された青少年補導員とともに街頭補導を行っている。
	所管による評価とその理由、課題・問題点					
	B:ある程度の成果を挙げた(達成度4割~7割)	非行防止に向けて青少年補導員や学校、関係機関と連携し、問題発生時は迅速に対応する中で、市内児童生徒の問題行動は減少傾向にある。有職少年についても駅近辺やショッピングセンターでの溜まり行為、オートバイでの迷惑行為はほとんどなかった。 SNSの普及によるトラブル(被害や非行、犯罪)が心配されることから、インターネットの使い方についての啓発活動やネットパトロールを関係機関と連携しながら強化していく必要がある。				
企画政策課での評価とその理由						
B:ある程度の成果を挙げた(達成度4割~7割)	各取組は青少年の健全育成に一定の成果を挙げていると認められる。引き続き、関係機関と連携を図るとともに青少年問題の相談活動の充実に努めていただきたい。					
政策調整会議での評価とその理由						
(この欄は斜線が入ります)						
庁議における方針						
(この欄は斜線が入ります)						

ACT (改善)	令和3年度活動指標(アウトプット)の設定		令和3年度成果指標(アウトカム)の設定	
	<ul style="list-style-type: none"> 職員定時パトロール回数 職員と青少年補導員による街頭補導回数 相談窓口の周知回数 ネットパトロール実施回数 不審者情報把握数 		<ul style="list-style-type: none"> 補導人数 相談件数 ネットパトロール報告数 不審者情報発信数 	
令和3年度における具体的な目標		令和3年度における事務事業スケジュール		
<ul style="list-style-type: none"> 非行防止に向けた街頭パトロールの強化 相談窓口としての積極的な周知 ネットパトロール強化 不審者情報の確実な発信 		<ul style="list-style-type: none"> 職員定時パトロール 通年 職員と青少年補導員による街頭補導 通年 相談事業の周知 13回 ネットパトロールの実施 通年 不審者情報把握 通年 		

令和2年度 事務事業整理シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
1	08	01	01	国際化推進事業

予算科目				
款	項	目	事	事業名
2	01	09	02	国際化推進事業

実施計画整理番号	
108010101	
総合戦略整理番号	0

事務事業の概要	
事業の目的(【だれ・何】を【どのような状態】にするか)	活動内容(目的を達成するために何を行うか)
多くの市民が異文化に触れ、交流に参加できる機会を創出するとともに、姉妹都市交流などの国際交流活動を通じて市民の国際感覚や意識づくりに努める。また、在住外国人と、お互いの価値観や文化を尊重しながら暮らすことのできる多文化共生社会づくりを国際交流協会との協働により推進する。	・姉妹都市交流を推進し、学生や市民の国際交流の機会を創出する。 ・国際交流協会と連携しながら、市民の国際意識の高揚を図るとともに、多文化共生社会の実現を目指す。
令和2年度の具体的な目標	令和2年度スケジュール
・姉妹都市ソルズベリー市からの学生等の受け入れを通じ、学生や市民の国際交流の機会を創出する。 ・在住外国人が安心して暮らせるための事業及び在住外国人を支援する体制の強化を図る。	・姉妹都市ソルズベリー市から学生等を受け入れる。 ・国際交流協会主催による国際交流事業を実施し、市民が国際交流活動へ参加できる機会を創出する。 ・国際交流協会と協働し、在住外国人を支援する事業を実施する。 ・国際交流協会会員の加入を促進する。

区分	単位	H29年度			H30年度			令和元年度			令和2年度			
		計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算	
事業費	千円	385	1,455	1,122	1,797	4,359	3,478	968	1,085	849	4,166	2,121	1,681	
財源内訳	国補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	県補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	市債	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	その他	千円	284	284	1,022	1,697	4,259	3,378	868	868	749	4,066	868	0
	一般財源	千円	101	1,171	100	100	100	100	100	217	100	100	1,253	1,681

個別取組	内容	取組に係る費用(千円)			個別取組の達成状況及び今後の方向性
		計画	予算	決算	
①	姉妹都市学生等受入	1,009	367	8	新型コロナウイルス感染症拡大により、受入ができなかったが、今後も継続。
②	茂原市国際交流協会の活動推進	100	100	100	今後も活動が充実するよう支援し、活動拡大を目指す。
③	国際交流基金の積立	501	1,654	1,573	定期預金利子及び基金への寄附32件。今後も継続。
④	姉妹都市への訪問団派遣	2,556	0	0	派遣なし。次回派遣はR4に実施予定。今後も4年毎に実施予定。
⑤					
⑥					
⑦					
⑧					
⑨					
⑩					
事業費計		4,166	2,121	1,681	

令和2年度の実施状況(事務事業の実施内容等を箇条書きで具体的に記入)

- ・姉妹都市交流として、ソルズベリー市長等と近況報告や今後の姉妹都市交流事業について連絡を取り合った。
- ・茂原市国際交流協会では、外国語を学ぶ機会として、「韓国語会話教室」「英会話教室」を実施した。

令和2年度 事務事業評価シート

基本計画					予算科目					整理番号
章	節	項	細	実施計画事業名	款	項	目	事	事業名	108010101
1	08	01	01	国際化推進事業	2	01	09	02	国際化推進事業	

CHECK (評価)	令和2年度活動指標(アウトプット)の達成状況					令和2年度成果指標(アウトカム)の達成状況				
	<ul style="list-style-type: none"> ・姉妹都市ソルズベリー市からの学生等受入回数及び人数:0回、0名。 ・国際交流協会主催事業の実施回数:5回(外国語教室5教室) ・国際交流協会会員の加入人数:17名が新規加入。計117名。 					<ul style="list-style-type: none"> ・市民の国際交流活動への参加人数:80名 ・国際理解・国際化意識の醸成された人数:個人会員17名増 				
	妥当性の評価とその理由		有効性の評価とその理由			効率性の評価とその理由				
	A:妥当である 国際交流事業の実施により、市民の国際意識の醸成や異文化理解が進み、多様性を認める社会の構築に貢献している。		B:やや有効である 国際交流活動に参加している市民は一部に限定されており、在住外国人への支援もまだまだ十分とは言えない。			A:効率的である 国際交流事業に必要な様々なスキルやノウハウを持つ個人や団体を有する国際交流協会との連携により、行政だけでは成し得ない事業を効率的に実施できている。				
	「情報の共有」の状況とその理由		「参加」の状況とその理由			「協働」の状況とその理由				
	A:実現している 市公式ウェブサイト、協会ホームページ、Facebook、自治会回覧や市広報紙などを利用し、PRに努めている。		その他 国際交流協会の会議には在住外国人を含む市民が参加し、企画から共に取り組んでおり、市民意見を積極的に取り入れて事業を実施している。			その他 国際交流協会の活動は、在住外国人を含む市民との協働が実現できている。				
所管による評価とその理由、課題・問題点										
B:ある程度の成果を挙げた(達成度4割~7割)		新型コロナウイルス感染症拡大により、語学教室以外の事業は中止となり、市民が国際交流事業に参加する機会が激減した。今後はウィズコロナ時代に沿った事業を考える必要がある。								
企画政策課での評価とその理由										
B:ある程度の成果を挙げた(達成度4割~7割)		コロナ禍でインターネットによる情報の共有に努めていることは一定の成果はあるが、生活環境の変化により不安等を持つ在住外国人もいると思われる。今後、一層の情報発信に努めるとともに、ウィズコロナ時代に合った国際交流を構築していただきたい。								
政策調整会議での評価とその理由										
庁議における方針										

A C T (改善)	令和3年度活動指標(アウトプット)の設定					令和3年度成果指標(アウトカム)の設定				
	<ul style="list-style-type: none"> ・姉妹都市ソルズベリー市からの学生等受入回数及び人数 ・国際交流協会会員の加入人数 ・国際交流協会主催事業の実施回数 					<ul style="list-style-type: none"> ・市民の国際交流活動への参加人数 ・国際理解・国際化意識の醸成された人数 				
令和3年度における具体的な目標					令和3年度における事務事業スケジュール					
<ul style="list-style-type: none"> ・国際交流協会活動の充実を図り、会員数の増加を目指す。 ・在住外国人が安心して暮らせるための事業及び在住外国人を支援する体制の強化を図る。 					<ul style="list-style-type: none"> ・国際交流協会主催による国際交流事業を実施し、市民が国際交流活動へ参加できる機会を創出する。 ・国際交流協会と協働し、在住外国人を支援する事業を実施する。 ・国際交流協会会員の加入を促進する。 					